

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科目区分	その他	授業の方法	講義
科目名	スポーツ特論		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対象学年	2年生		学期及び曜時間	前期 木曜4限	教室名	302
担当教員	生田晶子	実務経験と その関連資格	健康運動指導士, NSCA-CPT			
《授業科目における学習内容》						
スポーツ現場に必要なコーチングなどの知識や技術を学び理解する。						
《成績評価の方法と基準》						
素点 70% 出席評価点 20% 平常評価点 10%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
Reference Book (日本スポーツ協会) トレーニング指導者テキスト(JATI)理論編、実践編、実技編						
《授業外における学習方法》						
インターネットや新聞紙面等において、授業に関連する記事や情報を意識的に見るようにする。						
《履修に当たっての留意点》						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	スポーツコーチについて知ることが出来るようになる。	Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通して おき、不明なワードに 対してはインターネット 等にて確認しておく	
		各コマにおける授業予定	【コーチングとは】① コーチングとコーチの定義/ぐっとプレーヤーとグッドコーチ			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	プレイヤードセンタードについて理解することが出来るようになる。	Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通して おき、不明なワードに 対してはインターネット 等にて確認しておく	
		各コマにおける授業予定	【コーチングとは】② プレイヤードセンタード			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	コーチに求められる役割とスキルについて理解することが出来るようになる。	Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通して おき、不明なワードに 対してはインターネット 等にて確認しておく	
		各コマにおける授業予定	【コーチに求められる役割】 【コーチに求められる知識とスキル】			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	コミュニケーションスキルについて理解することが出来るようになる。	Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通して おき、不明なワードに 対してはインターネット 等にて確認しておく	
		各コマにおける授業予定	【対他者力】① コミュニケーションスキル			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	ファシリテーションスキルについて、理解することが出来るようになる。	Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通して おき、不明なワードに 対してはインターネット 等にて確認しておく	
		各コマにおける授業予定	【対他者力】② ファシリテーションスキル			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	対自己力について、理解することが出来るようになる。	Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通しておき、不明なワードに対してはインターネット等にて確認しておく
		各コマにおける授業予定	【対自己力】		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	スポーツの意義と価値について、更に理解を深めることが出来るようになる。	Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通しておき、不明なワードに対してはインターネット等にて確認しておく
		各コマにおける授業予定	【スポーツの意義と価値】① 社会の中のスポーツの価値		
第8回	実習形式	授業を通じての到達目標	スポーツの意義と価値について、理解することが出来るようになる。	Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通しておき、不明なワードに対してはインターネット等にて確認しておく
		各コマにおける授業予定	【スポーツの意義と価値】② スポーツの文化的特徴		
第9回	実習形式	授業を通じての到達目標	コーチングについてまとめ、より理解を深める。	Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通しておき、不明なワードに対してはインターネット等にて確認しておく
		各コマにおける授業予定	コーチングを理解する①		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	スポーツ権と自治ガバナンス・コンプライアンスについて、理解することが出来るようになる。	Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通しておき、不明なワードに対してはインターネット等にて確認しておく
		各コマにおける授業予定	【スポーツの価値を守るスポーツ権】 【スポーツの自治ガバナンスとコンプライアンス】		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	暴力・ハラスメント、インテグリティについて、更に理解を深めることが出来るようになる。	Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通しておき、不明なワードに対してはインターネット等にて確認しておく
		各コマにおける授業予定	【暴力・ハラスメントの根絶】 【スポーツのインテグリティ】		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	コーチングについてまとめ、より理解を深める。	Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通しておき、不明なワードに対してはインターネット等にて確認しておく
		各コマにおける授業予定	コーチングを理解する②		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	事故や法的責任、倫理について、理解することが出来るようになる。	Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通しておき、不明なワードに対してはインターネット等にて確認しておく
		各コマにおける授業予定	【スポーツ事故におけるスポーツ指導者の法的責任】 【スポーツ仲裁】【スポーツ倫理】【時代をリードするコーチング】		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	コーチングについてまとめ、より理解を深める。	Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通しておき、不明なワードに対してはインターネット等にて確認しておく
		各コマにおける授業予定	コーチングを理解する③		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	学んだ事を総復習し、コーチングとは何かを理解する。	Reference Book (日本スポーツ協会)	今までの授業内容をまとめる
		各コマにおける授業予定	総まとめ		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法		講義	
科 目 名	一般臨床医学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30	(2) 時間(単位)	
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	後期 水・4限	教室名	302教室		
担 当 教 員	塩路 康信	実務経験とその関連資格	医師免許 自治医科大学、岡山大学 臨床教授					
《授業科目における学習内容》								
<p>柔道整復師として内科疾患を治療することはありませんが、施術のために必要になる知識です。 国家試験合格レベルを最低限として習得。</p>								
《成績評価の方法と基準》								
定期試験 100%								
《使用教材(教科書)及び参考図書》								
<p>基礎医学の確認を行ないながら、生理学・病理学を基本として症状から一般的な治療法までを教授。 教科書内容(一般臨床医学:医歯薬出版)に応じて、教科書、スライドを使って授業を進めます。</p>								
《授業外における学習方法》								
<p>教科書に沿って、医学漢字・用語の確認 国家試験に対して重要科目で、必ず必要となる総論や概論であるため、確認作業がいる科目</p>								
《履修に当たっての留意点》								
<p>高齢者を診療対象とする柔道整復師には、一般臨床医学の内容は必須であると考えています。 勉強する内容は多いかもしれませんが、医師としての経験を交えながら、臨床に即して伝えますので頑張って勉強しましょう。</p>								
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容			
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	診察・医療面接の意義が理解できるようになる	一般臨床医学 (医歯薬出版)	医学用語,単語の意味			
		各コマにおける授業予定	診察概論,診察各論,医療面接					
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	診察各論:視診の意義・方法が理解できるようにする。	一般臨床医学 (医歯薬出版)	病気の原因・症状等の復習			
		各コマにおける授業予定	視診:体位,姿勢,歩行,皮膚の状態,頭部・顔面・腹部・四肢の変形					
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	診察各論:打診・聴診・触診の意義・方法が理解できるようにする。	一般臨床医学 (医歯薬出版)	病気の原因・症状等の復習			
		各コマにおける授業予定	打診・聴診・触診:肺・腹部の聴打診,心音,腹部・リンパ節の触診					
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	生命徴候の意義が理解できるようになる。	一般臨床医学 (医歯薬出版)	病気の原因・症状等の復習			
		各コマにおける授業予定	血圧測定, 検脈を実践し生命徴候の意義を理解する					
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	感覚検査・反射検査の意義・意味の理解が出来るようにする。	一般臨床医学 (医歯薬出版)	病気の原因・症状等の復習			
		各コマにおける授業予定	感覚検査:表在・深部・複合感覚, 反射検査:表在・腱・病的・自律神経					

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	臨床症状・検査法の意義・意味が理解できるようにする。	一般臨床医学 (医歯薬出版)	病気の原因・症状等の復習
		各コマにおける授業予定	代表的な臨床症状:発熱,出血傾向,リンパ節腫脹,意識障害,チアノーゼ,関節痛,浮腫,肥満,やせ		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	呼吸器疾患の総論または病気について説明できるようになる。	一般臨床医学 (医歯薬出版)	病気の原因・症状等の復習
		各コマにおける授業予定	1.総論 2.各疾患(慢性閉塞性肺疾患【COPD】・肺癌・肺血栓塞栓症・気胸)		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	循環器疾患の病気について説明できるようになる。	一般臨床医学 (医歯薬出版)	病気の原因・症状等の復習
		各コマにおける授業予定	1.総論 2.各疾患(うっ血性心不全・虚血性心疾患・心臓弁膜症・先天性心疾患・高血圧症・大動脈疾患・静脈疾患・不整脈)		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	消化器疾患の総論または病気について説明できるようになる。	一般臨床医学 (医歯薬出版)	病気の原因・症状等の復習
		各コマにおける授業予定	消化器疾患 1.総論 2.各疾患(消化管疾患・肝胆膵疾患・腹膜疾患)		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	代謝疾患の総論または病気について説明できるようになる。	一般臨床医学 (医歯薬出版)	病気の原因・症状等の復習
		各コマにおける授業予定	代謝疾患 1.総論 2各疾患(糖尿病・脂質異常症・肥満症・メタボリックシンドローム・高尿酸血症・痛風)		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	内分泌疾患の総論または病気について説明できるようになる。	一般臨床医学 (医歯薬出版)	病気の原因・症状等の復習
		各コマにおける授業予定	内分泌疾患 1.総論 2.各疾患(間脳疾患・下垂体疾患・甲状腺疾患・副甲状腺疾患)		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	血液・造血疾患の総論または病気について説明できるようになる。	一般臨床医学 (医歯薬出版)	病気の原因・症状等の復習
		各コマにおける授業予定	血液・造血疾患 1.総論 2.各疾患(赤血球疾患・白血球系疾患・リンパ系疾患・出血性素因・血漿蛋白異常症)		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	腎・尿路疾患の総論または病気について説明できるようになる。	一般臨床医学 (医歯薬出版)	病気の原因・症状等の復習
		各コマにおける授業予定	腎・尿路疾患 1.総論 2.各疾患(腎不全・糸球体疾患・間質の疾患・尿路感染症・遺伝性腎疾患・全身疾患に伴う腎障害・泌尿器科的疾患)		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	神経疾患の総論または病気について説明できるようになる。	一般臨床医学 (医歯薬出版)	病気の原因・症状等の復習
		各コマにおける授業予定	神経疾患 1.総論 2.各疾患(脳血管障害・腫瘍性疾患・感染性疾患・機能的疾患・神経変性疾患・炎症性神経疾患・神経免疫疾患・筋疾患)		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	感染症・リウマチ・膠原病・アレルギー疾患について説明できるようにする	一般臨床医学 (医歯薬出版)	病気の原因・症状等の復習
		各コマにおける授業予定	感染症:市中感染と院内感染・日和見感染,呼吸器感染症・尿路感染膠原病各疾患・リウマチの病態と治療,アレルギー反応について		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科目区分	その他	授業の方法	講義
科目名	健康運動実践講座		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対象学年	2年生		学期及び曜時限	後期	教室名	302教室
担当教員	生田晶子	実務経験と その関連資格	健康運動指導士 NSCA-CPT			
《授業科目における学習内容》						
「健康運動実践指導者」認定試験対策問題集を使用し、試験対策を行ないながら、1年次に学んだ健康運動実践指導者として必要な知識について再度確認する						
《成績評価の方法と基準》						
試験評価 70% 出席評価・定常評価 30%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
健康運動実践指導者養成用テキスト 「健康運動実践指導者」認定試験対策問題集						
《授業外における学習方法》						
テキストを精読し、理解、記憶できるよう努める						
《履修に当たっての留意点》						
授業の方法		内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	「健康運動実践指導者」認定試験対策問題集 第1章 健康づくり施策概論 について理解する		・「健康運動実践指導者」認定試験対策問題集 ・健康運動実践指導者養成用テキスト	・予めテキストに目を通しておく ・昨年度受講した該当章の授業内容を見直しておく
		各コマにおける授業予定	第1章 1問～25問(25問/全25問)の問題解答			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	「健康運動実践指導者」認定試験対策問題集 第1章 健康づくり施策概論 について理解する		・「健康運動実践指導者」認定試験対策問題集 ・健康運動実践指導者養成用テキスト	・予めテキストに目を通しておく ・昨年度受講した該当章の授業内容を見直しておく
		各コマにおける授業予定	第2章 1問～20問(20問/全50問)の問題解答			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	「健康運動実践指導者」認定試験対策問題集 第2章 運動生理学 について理解する		・「健康運動実践指導者」認定試験対策問題集 ・健康運動実践指導者養成用テキスト	・予めテキストに目を通しておく ・昨年度受講した該当章の授業内容を見直しておく
		各コマにおける授業予定	第2章 21問～40問(20問/全50問)の問題解答			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	「健康運動実践指導者」認定試験対策問題集 第2章 運動生理学 / 認知症を予防する運動 第3章 機能解剖とバイオメカニクス について理解する		・「健康運動実践指導者」認定試験対策問題集 ・健康運動実践指導者養成用テキスト	・予めテキストに目を通しておく ・昨年度受講した該当章の授業内容を見直しておく
		各コマにおける授業予定	第2章 41問～50問(10問/全50問)の問題解答 認知症を予防する運動 2問 第3章 1問～10問(10問/全35問)の問題解答			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	「健康運動実践指導者」認定試験対策問題集 第3章 機能解剖とバイオメカニクス について理解する		・「健康運動実践指導者」認定試験対策問題集 ・健康運動実践指導者養成用テキスト	・予めテキストに目を通しておく ・昨年度受講した該当章の授業内容を見直しておく
		各コマにおける授業予定	第3章 11問～35問(25問/全35問)の問題解答			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標 第4章 栄養摂取と運動 について理解する		<ul style="list-style-type: none"> 「健康運動実践指導者」認定試験対策問題集 健康運動実践指導者養成用テキスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・予めテキストに目を通しておく ・昨年度受講した該当章の授業内容を見直しておく
		各コマにおける授業予定	第4章 1問～26問(26問/全40問)の問題解答		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標 第4章 栄養摂取と運動 / 第5章 体力測定と評価 について理解する		<ul style="list-style-type: none"> 「健康運動実践指導者」認定試験対策問題集 健康運動実践指導者養成用テキスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・予めテキストに目を通しておく ・昨年度受講した該当章の授業内容を見直しておく
		各コマにおける授業予定	第4章 27問～40問(14問/全40問)の問題解答 第5章 1問～13問(13問/全40問)の問題解答		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標 第5章 体力測定と評価 について理解する		<ul style="list-style-type: none"> 「健康運動実践指導者」認定試験対策問題集 健康運動実践指導者養成用テキスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・予めテキストに目を通しておく ・昨年度受講した該当章の授業内容を見直しておく
		各コマにおける授業予定	第5章 14問～40問(27問/全40問)の問題解答		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標 第6章 健康づくり運動と健康プログラム について理解する		<ul style="list-style-type: none"> 「健康運動実践指導者」認定試験対策問題集 健康運動実践指導者養成用テキスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・予めテキストに目を通しておく ・昨年度受講した該当章の授業内容を見直しておく
		各コマにおける授業予定	第6章 1問～30問(30問/全30問)の問題解答		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標 第7章 運動指導の心理学的基礎 について理解する		<ul style="list-style-type: none"> 「健康運動実践指導者」認定試験対策問題集 健康運動実践指導者養成用テキスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・予めテキストに目を通しておく ・昨年度受講した該当章の授業内容を見直しておく
		各コマにおける授業予定	第7章 1問～25問(25問/全25問)の問題解答		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標 第8章 健康づくり運動の実際 について理解する		<ul style="list-style-type: none"> 「健康運動実践指導者」認定試験対策問題集 健康運動実践指導者養成用テキスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・予めテキストに目を通しておく ・昨年度受講した該当章の授業内容を見直しておく
		各コマにおける授業予定	第8章 1問～30問(30問/全105問)の問題解答		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標 第8章 健康づくり運動の実際 について理解する		<ul style="list-style-type: none"> 「健康運動実践指導者」認定試験対策問題集 健康運動実践指導者養成用テキスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・予めテキストに目を通しておく ・昨年度受講した該当章の授業内容を見直しておく
		各コマにおける授業予定	第8章 31問～60問(30問/全105問)の問題解答		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標 第8章 健康づくり運動の実際 について理解する		<ul style="list-style-type: none"> 「健康運動実践指導者」認定試験対策問題集 健康運動実践指導者養成用テキスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・予めテキストに目を通しておく ・昨年度受講した該当章の授業内容を見直しておく
		各コマにおける授業予定	第8章 61問～90問(30問/全105問)の問題解答		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標 第8章 健康づくり運動の実際 第9章 運動障害と予防・救急処置 について理解する		<ul style="list-style-type: none"> 「健康運動実践指導者」認定試験対策問題集 健康運動実践指導者養成用テキスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・予めテキストに目を通しておく ・昨年度受講した該当章の授業内容を見直しておく
		各コマにおける授業予定	第8章 91問～105問(15問/全105問)の問題解答 第9章 1問～13問(13問/全40問)の問題解答		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標 第9章 運動障害と予防・救急処置 について理解する		<ul style="list-style-type: none"> 「健康運動実践指導者」認定試験対策問題集 健康運動実践指導者養成用テキスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・予めテキストに目を通しておく ・昨年度受講した該当章の授業内容を見直しておく
		各コマにおける授業予定	第9章 1問～40問(40問/全40問)の問題解答		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	衛生学・公衆衛生学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	後期 木・2限	教室名	301教室
担 当 教 員	新庄 文明	実務経験と その関連資格	前長崎大学大学院教授(公衆衛生学)、ロンドン大学キングスカレッジ客員助教授、元 大阪大学医学部講師(社会系医学)、医学博士、歯科医師			
《授業科目における学習内容》						
公衆衛生学は、疾病の背景となる環境や人々の生活と、健康を保持・増進させるための社会の様々な仕組みについて、そのライフステージや背景を踏まえて科学的に研究する学問であり、極めて実践的な分野である。人々がなぜ疾病に罹るか、そして健康を回復・保持するための運動や生活習慣などの指導と直結した知識をすることとなる。						
《成績評価の方法と基準》						
定期試験 100%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
全国柔道整復学校協会監修 『衛生学・公衆衛生学』 改訂第6版(医歯薬出版)						
《授業外における学習方法》						
公衆衛生学は現在の社会の諸問題ならびに、それに対する政治・経済・文化的な人々の反応と直接にかかわる分野であり、新聞や出版物を通じて、今日の社会の動きなどについて関心を持ち、自らの判断力を養うことが重要である。						
《履修に当たっての留意点》						
健康や疾病の発生とその予防について、社会とのかかわりの中で理解し、身体の機能障害が個人的な事象だけでなく、社会の中で発生し、問題解決できるという総合的な判断力を身に着ける。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	公衆衛生学の歴史、疾病の自然史と予防対策、国内外の公衆衛生活動の動向について理解する	教科書『衛生学・公衆衛生学』および配布する補助資料	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。	
		各コマにおける授業予定	公衆衛生学総論:疾病予防と健康管理			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	健康の概念と健康水準、地域や国の健康指標としての人口の捉え方について理解する	教科書『衛生学・公衆衛生学』および配布する補助資料	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。	
		各コマにおける授業予定	人口と健康指標			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	感染とは何か、その条件や背景について理解する	教科書『衛生学・公衆衛生学』および配布する補助資料	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。	
		各コマにおける授業予定	感染症の予防 ①			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	要因別の感染予防の考え方、実際の対策とその方法について理解する	教科書『衛生学・公衆衛生学』および配布する補助資料	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。	
		各コマにおける授業予定	感染症の予防 ②			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	人々の生活をとりまく様々な環境要因とその影響、環境と疾病との関連について理解する	教科書『衛生学・公衆衛生学』および配布する補助資料	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。	
		各コマにおける授業予定	環境衛生			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	飲食物と健康、栄養改善と食品の安全性確保について理解する	教科書『衛生学・公衆衛生学』および配布する補助資料	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
		各コマにおける授業予定	食品衛生		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	母体の保護から育児、学童の生育環境の整備にかかわる社会の取り組みについて理解する	教科書『衛生学・公衆衛生学』および配布する補助資料	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
		各コマにおける授業予定	母子保健と学校保健		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	働く人々健康と安全の確保にむけた取り組みについて理解する	教科書『衛生学・公衆衛生学』および配布する補助資料	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
		各コマにおける授業予定	産業保健		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	人々のライフスタイルと健康について学び、健康づくりの現状と取り組みについて理解する	教科書『衛生学・公衆衛生学』および配布する補助資料	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
		各コマにおける授業予定	成人保健		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者の健康保持と要介護者の支援等、社会の取り組みのとその現状について理解する	教科書『衛生学・公衆衛生学』および配布する補助資料	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
		各コマにおける授業予定	老人保健と社会福祉		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	こころの健康として、社会と心身の健康の関りを理解する	教科書『衛生学・公衆衛生学』および配布する補助資料	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
		各コマにおける授業予定	精神保健		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	地域社会における保健対策の推移を学び、今日の衛生行政の機構を対策、法律や制度を理解する	教科書『衛生学・公衆衛生学』および配布する補助資料	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
		各コマにおける授業予定	地域保健と国際保健、衛生行政と保健医療制度		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	医療における安全対策、医療事故の防止、ならびに健康と生命にかかわる倫理的な課題について理解する	教科書『衛生学・公衆衛生学』および配布する補助資料	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
		各コマにおける授業予定	医療と生命倫理		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	一人一人の疾病や健康状態を集団的な視野から分析する疫学の発展、その手法について理解する	教科書『衛生学・公衆衛生学』および配布する補助資料	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
		各コマにおける授業予定	疫学とその考え方		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	後期の課題を整理し、理解度を確認する	教科書『衛生学・公衆衛生学』および配布する補助資料	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
		各コマにおける授業予定	まとめ		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科目区分	その他	授業の方法	講義
科目名	基礎対策講座		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	20 (1) 時間(単位)
対象学年	2年生		学期及び曜時間	前期 集中	教室名	303教室
担当教員	奥出 一貴、松澤 伸也 生田 晶子、松尾 起命	実務経験と その関連資格	柔道整復師、柔道整復師専科教員、鍼灸師 健康運動実践指導者、NSCA-CPT、JATI-ATI			
《授業科目における学習内容》						
解剖学・生理学・柔道整復理論における基礎内容の復習を行い、理解の定着を図るとともに、臨床および国家試験対策として重要な項目を中心に整理する。各分野の関連性を意識しながら学習することで、知識の統合と応用力の向上を目指す。						
《成績評価の方法と基準》						
<ul style="list-style-type: none"> ・出席点 ・平常点 ・レポート提出 						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
解剖学 改訂第2版 生理学 改訂第4版 柔道整復理論編 改訂第7版						
《授業外における学習方法》						
授業内容の復習および問題演習を行い、知識の定着を図るとともに、苦手分野の把握と克服に努めること。						
《履修に当たっての留意点》						
授業への積極的な参加および継続的な復習を行うこと。また、不明点は放置せず早期に解決するよう努めること。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第16回	授業を通じての到達目標	挨拶や社会人としての基本的マナーを理解し、適切に行動できるようになることを目標とする。また、利用者との関わりを通じてコミュニケーションスキルおよび実践的な技術力の向上を図る。		必要に応じて配布資料	スポーツ観戦や技術練習、座学復習を通じて知識と技能の定着を図る	
	各コマにおける授業予定	湯郷ベルボランティア実習、湯郷ベルストレッチブース対応、岡山シーガルズ練習見学、ちくさ高原スキー場救護実習、スポーツフェス等の学校イベント対応				
第17回	授業を通じての到達目標	挨拶や社会人としての基本的マナーを理解し、適切に行動できるようになることを目標とする。また、利用者との関わりを通じてコミュニケーションスキルおよび実践的な技術力の向上を図る。		必要に応じて配布資料	スポーツ観戦や技術練習、座学復習を通じて知識と技能の定着を図る	
	各コマにおける授業予定	湯郷ベルボランティア実習、湯郷ベルストレッチブース対応、岡山シーガルズ練習見学、ちくさ高原スキー場救護実習、スポーツフェス等の学校イベント対応				
第18回	授業を通じての到達目標	挨拶や社会人としての基本的マナーを理解し、適切に行動できるようになることを目標とする。また、利用者との関わりを通じてコミュニケーションスキルおよび実践的な技術力の向上を図る。		必要に応じて配布資料	スポーツ観戦や技術練習、座学復習を通じて知識と技能の定着を図る	
	各コマにおける授業予定	湯郷ベルボランティア実習、湯郷ベルストレッチブース対応、岡山シーガルズ練習見学、ちくさ高原スキー場救護実習、スポーツフェス等の学校イベント対応				
第19回	授業を通じての到達目標	挨拶や社会人としての基本的マナーを理解し、適切に行動できるようになることを目標とする。また、利用者との関わりを通じてコミュニケーションスキルおよび実践的な技術力の向上を図る。		必要に応じて配布資料	スポーツ観戦や技術練習、座学復習を通じて知識と技能の定着を図る	
	各コマにおける授業予定	湯郷ベルボランティア実習、湯郷ベルストレッチブース対応、岡山シーガルズ練習見学、ちくさ高原スキー場救護実習、スポーツフェス等の学校イベント対応				
第20回	授業を通じての到達目標	挨拶や社会人としての基本的マナーを理解し、適切に行動できるようになることを目標とする。また、利用者との関わりを通じてコミュニケーションスキルおよび実践的な技術力の向上を図る。		必要に応じて配布資料	スポーツ観戦や技術練習、座学復習を通じて知識と技能の定着を図る	
	各コマにおける授業予定	湯郷ベルボランティア実習、湯郷ベルストレッチブース対応、岡山シーガルズ練習見学、ちくさ高原スキー場救護実習、スポーツフェス等の学校イベント対応				

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	その他	授業の方法	講義
科 目 名	基礎対策講座		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	20 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	前期 集中	教室名	303教室
担 当 教 員	奥出 一貴、松澤 伸也 生田 晶子、松尾 起命	実務経験と その関連資格	柔道整復師、柔道整復師専科教員、鍼灸師 健康運動実践指導者、NSCA-CPT、JATI-ATI			
《授業科目における学習内容》						
解剖学・生理学・柔道整復理論における基礎内容の復習を行い、理解の定着を図るとともに、臨床および国家試験対策として重要な項目を中心に整理する。各分野の関連性を意識しながら学習することで、知識の統合と応用力の向上を目指す。						
《成績評価の方法と基準》						
<ul style="list-style-type: none"> ・出席点 ・平常点 ・レポート提出 						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
解剖学 改訂第2版 生理学 改訂第4版 柔道整復理論編 改訂第7版						
《授業外における学習方法》						
授業内容の復習および問題演習を行い、知識の定着を図るとともに、苦手分野の把握と克服に努めること。						
《履修に当たっての留意点》						
授業への積極的な参加および継続的な復習を行うこと。また、不明点は放置せず早期に解決するよう努めること。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	授業を通じての到達目標	基礎科目の重要事項を理解・整理し、関連づけて説明できるとともに、国家試験問題に対応できる基礎力を身につける。		解剖学 改訂第2版 生理学 改訂第4版 柔道整復理論編 改訂第7版	復習および問題演習により知識の定着を図る。	
	各コマにおける授業予定	解剖学・生理学・柔道整復学の問題演習・解説				
第2回	授業を通じての到達目標	基礎科目の重要事項を理解・整理し、関連づけて説明できるとともに、国家試験問題に対応できる基礎力を身につける。		解剖学 改訂第2版 生理学 改訂第4版 柔道整復理論編 改訂第7版	復習および問題演習により知識の定着を図る。	
	各コマにおける授業予定	解剖学・生理学・柔道整復学の問題演習・解説				
第3回	授業を通じての到達目標	基礎科目の重要事項を理解・整理し、関連づけて説明できるとともに、国家試験問題に対応できる基礎力を身につける。		解剖学 改訂第2版 生理学 改訂第4版 柔道整復理論編 改訂第7版	復習および問題演習により知識の定着を図る。	
	各コマにおける授業予定	解剖学・生理学・柔道整復学の問題演習・解説				
第4回	授業を通じての到達目標	基礎科目の重要事項を理解・整理し、関連づけて説明できるとともに、国家試験問題に対応できる基礎力を身につける。		解剖学 改訂第2版 生理学 改訂第4版 柔道整復理論編 改訂第7版	復習および問題演習により知識の定着を図る。	
	各コマにおける授業予定	解剖学・生理学・柔道整復学の問題演習・解説				
第5回	授業を通じての到達目標	基礎科目の重要事項を理解・整理し、関連づけて説明できるとともに、国家試験問題に対応できる基礎力を身につける。		解剖学 改訂第2版 生理学 改訂第4版 柔道整復理論編 改訂第7版	復習および問題演習により知識の定着を図る。	
	各コマにおける授業予定	解剖学・生理学・柔道整復学の問題演習・解説				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	演習を通じての到達目標	基礎科目の重要事項を理解・整理し、関連づけて説明できるとともに、国家試験問題に対応できる基礎力を身につける。		解剖学 改訂第2版 生理学 改訂第4版 柔道整復理論編 改訂第7版	復習および問題演習により知識の定着を図る。
	各コマにおける授業予定	解剖学・生理学・柔道整復学の問題演習・解説			
第7回	演習を通じての到達目標	基礎科目の重要事項を理解・整理し、関連づけて説明できるとともに、国家試験問題に対応できる基礎力を身につける。		解剖学 改訂第2版 生理学 改訂第4版 柔道整復理論編 改訂第7版	復習および問題演習により知識の定着を図る。
	各コマにおける授業予定	解剖学・生理学・柔道整復学の問題演習・解説			
第8回	演習を通じての到達目標	基礎科目の重要事項を理解・整理し、関連づけて説明できるとともに、国家試験問題に対応できる基礎力を身につける。		解剖学 改訂第2版 生理学 改訂第4版 柔道整復理論編 改訂第7版	復習および問題演習により知識の定着を図る。
	各コマにおける授業予定	解剖学・生理学・柔道整復学の問題演習・解説			
第9回	演習を通じての到達目標	基礎科目の重要事項を理解・整理し、関連づけて説明できるとともに、国家試験問題に対応できる基礎力を身につける。		解剖学 改訂第2版 生理学 改訂第4版 柔道整復理論編 改訂第7版	復習および問題演習により知識の定着を図る。
	各コマにおける授業予定	解剖学・生理学・柔道整復学の問題演習・解説			
第10回	演習を通じての到達目標	基礎科目の重要事項を理解・整理し、関連づけて説明できるとともに、国家試験問題に対応できる基礎力を身につける。		解剖学 改訂第2版 生理学 改訂第4版 柔道整復理論編 改訂第7版	復習および問題演習により知識の定着を図る。
	各コマにおける授業予定	解剖学・生理学・柔道整復学の問題演習・解説			

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科目区分	その他	授業の方法	講義
科目名	基礎対策講座		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	20 (1) 時間(単位)
対象学年	2年生		学期及び曜時間	前期 集中	教室名	303教室
担当教員	奥出 一貴、松澤 伸也 生田 晶子、松尾 起命	実務経験と その関連資格	柔道整復師、柔道整復師専科教員、鍼灸師 健康運動実践指導者、NSCA-CPT、JATI-ATI			
《授業科目における学習内容》						
解剖学・生理学・柔道整復理論における基礎内容の復習を行い、理解の定着を図るとともに、臨床および国家試験対策として重要な項目を中心に整理する。各分野の関連性を意識しながら学習することで、知識の統合と応用力の向上を目指す。						
《成績評価の方法と基準》						
<ul style="list-style-type: none"> ・出席点 ・平常点 ・レポート提出 						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
解剖学 改訂第2版 生理学 改訂第4版 柔道整復理論編 改訂第7版						
《授業外における学習方法》						
授業内容の復習および問題演習を行い、知識の定着を図るとともに、苦手分野の把握と克服に努めること。						
《履修に当たっての留意点》						
授業への積極的な参加および継続的な復習を行うこと。また、不明点は放置せず早期に解決するよう努めること。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第16回	授業を通じての到達目標	挨拶や社会人としての基本的マナーを理解し、適切に行動できるようになることを目標とする。また、利用者との関わりを通じてコミュニケーションスキルおよび実践的な技術力の向上を図る。		必要に応じて配布資料	スポーツ観戦や技術練習、座学復習を通じて知識と技能の定着を図る	
	各コマにおける授業予定	湯郷ベルボランティア実習、湯郷ベルストレッチブース対応、岡山シーガルズ練習見学、ちくさ高原スキー場救護実習、スポーツフェス等の学校イベント対応				
第17回	授業を通じての到達目標	挨拶や社会人としての基本的マナーを理解し、適切に行動できるようになることを目標とする。また、利用者との関わりを通じてコミュニケーションスキルおよび実践的な技術力の向上を図る。		必要に応じて配布資料	スポーツ観戦や技術練習、座学復習を通じて知識と技能の定着を図る	
	各コマにおける授業予定	湯郷ベルボランティア実習、湯郷ベルストレッチブース対応、岡山シーガルズ練習見学、ちくさ高原スキー場救護実習、スポーツフェス等の学校イベント対応				
第18回	授業を通じての到達目標	挨拶や社会人としての基本的マナーを理解し、適切に行動できるようになることを目標とする。また、利用者との関わりを通じてコミュニケーションスキルおよび実践的な技術力の向上を図る。		必要に応じて配布資料	スポーツ観戦や技術練習、座学復習を通じて知識と技能の定着を図る	
	各コマにおける授業予定	湯郷ベルボランティア実習、湯郷ベルストレッチブース対応、岡山シーガルズ練習見学、ちくさ高原スキー場救護実習、スポーツフェス等の学校イベント対応				
第19回	授業を通じての到達目標	挨拶や社会人としての基本的マナーを理解し、適切に行動できるようになることを目標とする。また、利用者との関わりを通じてコミュニケーションスキルおよび実践的な技術力の向上を図る。		必要に応じて配布資料	スポーツ観戦や技術練習、座学復習を通じて知識と技能の定着を図る	
	各コマにおける授業予定	湯郷ベルボランティア実習、湯郷ベルストレッチブース対応、岡山シーガルズ練習見学、ちくさ高原スキー場救護実習、スポーツフェス等の学校イベント対応				
第20回	授業を通じての到達目標	挨拶や社会人としての基本的マナーを理解し、適切に行動できるようになることを目標とする。また、利用者との関わりを通じてコミュニケーションスキルおよび実践的な技術力の向上を図る。		必要に応じて配布資料	スポーツ観戦や技術練習、座学復習を通じて知識と技能の定着を図る	
	各コマにおける授業予定	湯郷ベルボランティア実習、湯郷ベルストレッチブース対応、岡山シーガルズ練習見学、ちくさ高原スキー場救護実習、スポーツフェス等の学校イベント対応				

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	外傷の保存療法		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	15 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	前期 金・3限	教室名	302教室
担 当 教 員	奥出 一貴	実務経験と その関連資格	柔道整復師、柔道整復師専科教員、NSCA-CPT、赤十字救急法指導員			
《授業科目における学習内容》						
柔道整復師の業務範囲である骨折、脱臼、捻挫、打撲、挫傷について各傷害についての保存療法について注意点や固定法、後療法について学ぶ。						
《成績評価の方法と基準》						
定期試験:100%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
南江堂 実践にもとづく骨折・脱臼の保存療法 南江堂 柔道整復理論 改訂第6版 配布プリント						
《授業外における学習方法》						
柔道整復理論の各論の各部位の骨折、脱臼、軟部組織損傷の復習、また履修してない部分については予習を行い、各傷害の内容について理解しておく。						
《履修に当たっての留意点》						
各傷害についての内容を理解していないと、保存療法についての知識が入ってこないため、しっかりと各傷害についての復習、予習を行ってほしい。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外の準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨折、脱臼の復習で理解を深め、保存療法におけるX線画像、整復法、固定法、運動療法の基礎知識について理解できるようになる。	実践にもとづく骨折・脱臼の保存療法 柔道整復理論 改訂第6版 配布プリント	柔道整復学・理論編の総論を見直しておく。	
		各コマにおける授業予定	保存療法 総論			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	上肢骨折について柔整理論の復習を行いながら、保存療法について理解することができるようになる。	実践にもとづく骨折・脱臼の保存療法 柔道整復理論 改訂第6版 配布プリント	柔整理論の肩関節前方脱臼を読んでおく。 解剖学にて肩関節周囲の関連する項目の内容確認。	
		各コマにおける授業予定	上肢骨折			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	上肢脱臼について柔整理論の復習を行いながら、保存療法について理解することができるようになる。	実践にもとづく骨折・脱臼の保存療法 柔道整復理論 改訂第6版 配布プリント	柔整理論の肩関節前方脱臼を読んでおく。 解剖学にて肩関節周囲の関連する項目の内容確認。	
		各コマにおける授業予定	上肢脱臼			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	上肢軟部組織損傷について柔整理論の復習を行いながら、保存療法について理解することができるようになる。	実践にもとづく骨折・脱臼の保存療法 柔道整復理論 改訂第6版 配布プリント	柔整理論の舟状骨骨折を読んでおく。 解剖学にて手根骨に関連する項目の内容確認。	
		各コマにおける授業予定	上肢軟部組織損傷			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	下肢骨折について柔整理論の復習を行いながら、保存療法について理解することができるようになる。	実践にもとづく骨折・脱臼の保存療法 柔道整復理論 改訂第6版 配布プリント	柔整理論の舟状骨骨折を読んでおく。 解剖学にて手根骨に関連する項目の内容確認。	
		各コマにおける授業予定	下肢骨折			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	下肢脱臼について柔整理論の復習を行いながら、保存療法について理解することができるようになる。	柔道整復理論 改訂第6版 配布プリント	柔整理論の肩関節周囲炎を読んでおく。 解剖学で肩関節に関連する項目の内容確認。
		各コマにおける授業予定	下肢脱臼		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	下肢軟部組織損傷について柔整理論の復習を行いながら、保存療法について理解することができるようになる。	実践にもとづく骨折・脱臼の保存療法 柔道整復理論 改訂第6版 配布プリント	柔整理論の橈骨遠位端骨折を読んでおく。 解剖学で橈骨遠位端部に関連する項目の内容確認。
		各コマにおける授業予定	下肢軟部組織損傷		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	後期学習した内容の復習を行い、上肢、下肢に対する保存療法について理解を深めることができるようになる。	実践にもとづく骨折・脱臼の保存療法 柔道整復理論 改訂第6版 配布プリント	全7回の内容を配布プリント、教科書を参考に復習しておく。
		各コマにおける授業予定	まとめ		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科目区分	基礎分野	授業の方法	講義
科目名	心理学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対象学年	2年生		学期及び曜時間	前期 水・2限	教室名	302教室
担当教員	小松 弘子	実務経験とその関連資格	児童発達支援事業所めばえ 臨床心理士 公認心理師資格			
《授業科目における学習内容》						
心理学の基礎から応用まで、柔道整復師、スポーツトレーナーの業務に生かせる知識、技法などについて理論的に学ぶ						
《成績評価の方法と基準》						
定期試験 100%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
新しい心理学ゼミナール 基礎から応用まで						
《授業外における学習方法》						
教科書に沿って心理学を学び、心理技法及びメンタルトレーニング、スポーツ心理に関連する技法を学習する						
《履修に当たっての留意点》						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	発達の心理学	新しい心理学ゼミナール 基礎から応用まで	本読み予習	
		各コマにおける授業予定	動物と人間 人間発達のしくみ			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	発達の心理学	新しい心理学ゼミナール 基礎から応用まで	本読み予習	
		各コマにおける授業予定	発達段階の心理学(乳児期～老年期)			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	知覚の心理学	新しい心理学ゼミナール 基礎から応用まで	本読み予習	
		各コマにおける授業予定	知覚の成立 3次元空間の成立 錯視現象 視覚以外の知覚			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	性格の心理学	新しい心理学ゼミナール 基礎から応用まで	本読み予習	
		各コマにおける授業予定	性格とはなにか? エゴグラムから自分を知る			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	認知の心理学	新しい心理学ゼミナール 基礎から応用まで	本読み予習	
		各コマにおける授業予定	注意 記憶 記憶演習、実践 集中力をつけるトレーニング			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	学習の心理学	新しい心理学ゼミ ナール 基礎から 応用まで	本読み予習
		各コマにおける授業予定	学習とは 学習の形成 ささまざまな学習		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	感情と欲求の心理学	新しい心理学ゼミ ナール 基礎から 応用まで	本読み予習
		各コマにおける授業予定	感情 欲求 自己評価を知り他者を知る演習		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	臨床の心理学	新しい心理学ゼミ ナール 基礎から 応用まで	本読み予習
		各コマにおける授業予定	心の仕組み 心のバランス(心の適応と不適応) 心の病		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	臨床の心理学	新しい心理学ゼミ ナール 基礎から 応用まで	本読み予習
		各コマにおける授業予定	心の治療 心理テスト		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	社会の心理学	新しい心理学ゼミ ナール 基礎から 応用まで	本読み予習
		各コマにおける授業予定	社会的認知 社会的自己 対人魅力		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	社会の心理学	新しい心理学ゼミ ナール 基礎から 応用まで	本読み予習
		各コマにおける授業予定	社会的態度 同調と服従 群集心理		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	犯罪の心理学	新しい心理学ゼミ ナール 基礎から 応用まで	本読み予習
		各コマにおける授業予定	犯罪の原因と防犯 ささまざまな犯罪 非行・少年犯罪		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	環境の心理学	新しい心理学ゼミ ナール 基礎から 応用まで	本読み予習
		各コマにおける授業予定	環境とは コーチングについての演習		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	スポーツの心理学	新しい心理学ゼミ ナール 基礎から 応用まで	本読み予習
		各コマにおける授業予定	スポーツと動機づけ 運動学習 メンタルトレーニング		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	心理学の歴史	新しい心理学ゼミ ナール 基礎から 応用まで	本読み予習
		各コマにおける授業予定	心理学は19世紀中ごろに成立した 3つの勢力の出現 日本の心理学		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科目区分	基礎分野	授業の方法	講義演習
科目名	コンピューター		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (4) 時間(単位)
対象学年	2年生		学期及び曜時間	前期 水・3限	教室名	pc視聴覚室
担当教員	久安 歩	実務経験とその関連資格	高等学校教諭一種免許状(情報)			
《授業科目における学習内容》						
<p>コンピュータ自体の操作の習熟をはかることはもちろん、ソフトウェア間の連携、コンピュータネットワーク環境の適切な利用ができることに重点を置いて実施する。これにより、在学中ならびに卒業後の情報処理スキルの向上を図る。</p>						
《成績評価の方法と基準》						
定期試験 70% 提出物 20% 態度・発表 10%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
FOM出版 わかるとできるMicrosoft Word・Excel・PowerPoint 2024						
《授業外における学習方法》						
自宅にあるPCを使つての復習等。						
《履修に当たつての留意点》						
Microsoft Officeの基本的な操作方法を覚える。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	Microsoft Officeとは何か。を理解する	FOM出版 わかるとできる Microsoft Word・Excel・PowerPoint 2024		
	各コマにおける授業予定		ワード、エクセル、パワーポイントの紹介。簡単な操作方法			
第2回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	文書作成ソフトを使って基本的な文書作成ができる	FOM出版 わかるとできる Microsoft Word・Excel・PowerPoint 2024		
	各コマにおける授業予定		タイピング練習。ワードの基礎的な操作方法を覚える			
第3回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	ビジネス文書を作成できる	FOM出版 わかるとできる Microsoft Word・Excel・PowerPoint 2024		
	各コマにおける授業予定		文書作成、書式設定の方法を覚える			
第4回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	グラフィック機能を利用し、表現豊かな文書を作成できる	FOM出版 わかるとできる Microsoft Word・Excel・PowerPoint 2024		
	各コマにおける授業予定		文書内に写真・イラストを挿入する方法を覚える			
第5回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	ワードでの表の作成や編集ができる	FOM出版 わかるとできる Microsoft Word・Excel・PowerPoint 2024		
	各コマにおける授業予定		文書内での表の挿入の仕方、編集の仕方を覚える			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	エクセルの基本操作ができる	FOM出版 わかるとできる Microsoft Word・Excel・PowerPoint 2024	
		各コマにおける授業予定	エクセルの画面構成、操作方法を覚える		
第7回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	四則演算、関数、絶対参照といった計算機能を使う事ができる	FOM出版 わかるとできる Microsoft Word・Excel・PowerPoint 2024	
		各コマにおける授業予定	エクセルでの表作成、関数を使った計算の方法を覚える		
第8回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	グラフの作成方法を理解し、活用できる	FOM出版 わかるとできる Microsoft Word・Excel・PowerPoint 2024	
		各コマにおける授業予定	作成した表から、適切なグラフを選び挿入することができるようになる		
第9回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	データベース機能を理解し、活用できる	FOM出版 わかるとできる Microsoft Word・Excel・PowerPoint 2024	
		各コマにおける授業予定	膨大な表から必要な情報を抽出し、抜き出すことができるようになる		
第10回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	エクセル・ワード まとめ練習問題 等	FOM出版 わかるとできる Microsoft Word・Excel・PowerPoint 2024	
		各コマにおける授業予定	ワード・エクセルでの操作のまとめ問題集		
第11回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	PowerPointの基本操作ができる グラフィック機能を活用し、表現力豊かなスライドが作成できる	FOM出版 わかるとできる Microsoft Word・Excel・PowerPoint 2024	
		各コマにおける授業予定	PowerPointを使ったスライドの作り方、基本的な操作方法を覚える		
第12回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	特殊効果を設定し、魅せるスライドの作り方を練習する	FOM出版 わかるとできる Microsoft Word・Excel・PowerPoint 2024	
		各コマにおける授業予定	ページの切り替え設定を利用し、見た目を重視したスライドを作成		
第13回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	スライド作成ができる(課題作成)	FOM出版 わかるとできる Microsoft Word・Excel・PowerPoint 2024	
		各コマにおける授業予定	与えられた課題について、自身で調べながらスライドを作成		
第14回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	与えられた課題に沿ってスライド作成、完成まで	FOM出版 わかるとできる Microsoft Word・Excel・PowerPoint 2024	
		各コマにおける授業予定	課題作成、プレゼンテーション発表		
第15回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	Microsoft Officeでの操作方法を理解し、実践で使うことができるようになる	FOM出版 わかるとできる Microsoft Word・Excel・PowerPoint 2024	
		各コマにおける授業予定	まとめと試験		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	コンピューター		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (4) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	通年 水・3限	教室名	pc視聴覚室
担 当 教 員	久安 歩	実務経験と その関連資格	高等学校教諭一種免許状(情報)			
《授業科目における学習内容》						
<p>コンピュータ自体の操作の習熟をはかることはもちろん、ソフトウェア間の連携、コンピュータネットワーク環境の適切な利用ができることに重点を置いて実施する。これにより、在学中ならびに卒業後の情報処理スキルの向上を図る。</p>						
《成績評価の方法と基準》						
定期試験 70% 提出物 20% 態度・発表 10%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
FOM出版 わかるとできるMicrosoft Word・Excel・PowerPoint2024						
《授業外における学習方法》						
自宅にあるPCを使つての復習等。						
《履修に当たつての留意点》						
Microsoft Officeの基本的な操作方法を覚える。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第16回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	ワードの応用的な操作ができる	FOM出版 わかるとできる Microsoft Word・Excel・PowerPoint2024		
		各コマにおける授業予定	既存の文書内容を変更できるようになる			
第17回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	複雑な書式の文書が作成できる	FOM出版 わかるとできる Microsoft Word・Excel・PowerPoint2024		
		各コマにおける授業予定	段組みを利用した複雑な文書作成			
第18回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	写真や画像の編集ができる	FOM出版 わかるとできる Microsoft Word・Excel・PowerPoint2024		
		各コマにおける授業予定	画像のトリミング、コントラスト変更、回転やアート効果など			
第19回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	インターネットからの情報収集の仕方。写真などの保存ができる	FOM出版 わかるとできる Microsoft Word・Excel・PowerPoint2024		
		各コマにおける授業予定	素材提供サイトから画像素材の保存方法、文書への挿入方法など			
第20回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	ヘッダー・フッターの挿入、編集ができる	FOM出版 わかるとできる Microsoft Word・Excel・PowerPoint2024		
		各コマにおける授業予定	ヘッダー・フッターの挿入、編集の仕方を覚える			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第21回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	エクセルの応用的な操作ができる	FOM出版 わかるとできる Microsoft Word・Excel・PowerPoint2024	
		各コマにおける授業予定	応用的な関数。四捨五入、切り上げ、切り捨てなどを覚える		
第22回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	実用的な関数を使うことができる	FOM出版 わかるとできる Microsoft Word・Excel・PowerPoint2024	
		各コマにおける授業予定	日付の計算。条件で判断する関数を覚える		
第23回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	応用的な書式を設定できる	FOM出版 わかるとできる Microsoft Word・Excel・PowerPoint2024	
		各コマにおける授業予定	条件付き書式、入力規則の設定、コメントの挿入の仕方を覚える		
第24回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	スマートアートを使うことができる	FOM出版 わかるとできる Microsoft Word・Excel・PowerPoint2024	
		各コマにおける授業予定	スマートアートや図形を使って鮮やかなブックの作成方法を覚える		
第25回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	ワード、エクセルのまとめ練習問題	FOM出版 わかるとできる Microsoft Word・Excel・PowerPoint2024	
		各コマにおける授業予定	エクセル・ワードでのまとめ。練習問題など		
第26回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	パワーポイントの応用的な操作ができる	FOM出版 わかるとできる Microsoft Word・Excel・PowerPoint2024	
		各コマにおける授業予定	スライドに必要な素材を収集方法を覚える		
第27回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	スライドに動画や音楽を挿入できる	FOM出版 わかるとできる Microsoft Word・Excel・PowerPoint2024	
		各コマにおける授業予定	事前に用意した動画、ビデオ、音楽を組み込んだスライド作成		
第28回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	応用的なアニメーションを使うことができる	FOM出版 わかるとできる Microsoft Word・Excel・PowerPoint2024	
		各コマにおける授業予定	図形や画像にアニメーションを設定し、自由に動かすことができる		
第29回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	プレゼンテーション作成	FOM出版 わかるとできる Microsoft Word・Excel・PowerPoint2024	
		各コマにおける授業予定	課題にそった情報収集とスライドの作成		
第30回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	Microsoft Officeへの理解をさらに深め、使いこなすことができる	FOM出版 わかるとできる Microsoft Word・Excel・PowerPoint2024	
		各コマにおける授業予定	まとめと試験		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科目名	救急医学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対象学年	2年		学期及び曜時間	後期 月2,3,4	教室名	302教室
担当教員	鈴木 伸典	実務経験と その関連資格	医師免許 大阪府立千里看護専門学校、大阪市立看護専門学校、東亜大学 非常勤講師			
《授業科目における学習内容》						
医療の中の柔道整復(全国柔道整復学校協会)						
《成績評価の方法と基準》						
試験100%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
南江堂 全国柔道整復学校協会 (医療の中の柔道整復)						
《授業外における学習方法》						
《履修に当たっての留意点》						
国家試験に類似する(整形外科・一般臨床医学)						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	結核の病態・骨折との共通点	全国柔道整復学校協会 医療の中の柔道整復	本読み学習	
		各コマにおける授業予定	背痛:脊椎カリエス			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨基質の減少・病的骨折	全国柔道整復学校協会 医療の中の柔道整復	本読み学習	
		各コマにおける授業予定	背痛:骨粗鬆			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	痛みの病理・外傷との共通	全国柔道整復学校協会 医療の中の柔道整復	本読み学習	
		各コマにおける授業予定	腹痛:炎症性腸疾患			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	関節リウマチ・骨腫瘍	全国柔道整復学校協会 医療の中の柔道整復	本読み学習	
		各コマにおける授業予定	関節痛・腰痛			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	出血性ショック・動脈損傷	全国柔道整復学校協会 医療の中の柔道整復	本読み学習	
		各コマにおける授業予定	血流障害・ショック			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	コンパートメント症候群・末梢神経損傷	全国柔道整復学校協会 医療の中の柔道整復	本読み学習
		各コマにおける授業予定	神経損傷		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	CRPS・出血機転	全国柔道整復学校協会 医療の中の柔道整復	本読み学習
		各コマにおける授業予定	出血・骨折合併症		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	ショック分類・救急処置	全国柔道整復学校協会 医療の中の柔道整復	本読み学習
		各コマにおける授業予定	出血性ショック		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	心マッサージ・AED・トリアージ	全国柔道整復学校協会 医療の中の柔道整復	本読み学習
		各コマにおける授業予定	救急処置		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	症候性頭痛	全国柔道整復学校協会 医療の中の柔道整復	本読み学習
		各コマにおける授業予定	頭部外傷:頭痛		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	脳振盪・JCS	全国柔道整復学校協会 医療の中の柔道整復	本読み学習
		各コマにおける授業予定	頭部外傷:意識障害		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	硬膜外血腫・硬膜下血腫・脳挫傷	全国柔道整復学校協会 医療の中の柔道整復	本読み学習
		各コマにおける授業予定	頭部外傷:頭蓋内血腫		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	自然気胸・外傷性気胸	全国柔道整復学校協会 医療の中の柔道整復	本読み学習
		各コマにおける授業予定	胸部外傷:気胸		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	胸壁動揺・血胸	全国柔道整復学校協会 医療の中の柔道整復	本読み学習
		各コマにおける授業予定	胸部外傷:肋骨骨折		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	腹部損傷・災害救急治療	全国柔道整復学校協会 医療の中の柔道整復	本読み学習
		各コマにおける授業予定	高エネルギー・外傷		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	実習
科 目 名	柔整基礎実技Ⅲ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時間	後期	教室名	実技室2
担 当 教 員	奥出 一貴	実務経験と その関連資格	柔道整復師、専科教員資格、NSCA-CPT、赤十字救急法指導員 医療法人淳良会 関目病院、橋本スポーツ鍼灸整骨院			
《授業科目における学習内容》						
柔道整復各論Ⅲで学んだ頭部・体幹の損傷に対する評価法・整復法・固定法についての実技を学ぶ。						
《成績評価の方法と基準》						
試験点数100%にて評価する。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
柔道整復学 理論編 改訂第6版 ・ 柔道整復学 実技編 改訂第2版 骨関節の機能解剖 配布資料						
《授業外における学習方法》						
教科書及び配布資料をよく読み、特に復習に力を入れること。実技は繰り返し練習をしなければ身につかないため、学生同士での練習が不可欠である。						
《履修に当たっての留意点》						
柔道整復基礎Ⅲ及び、柔道整復各論Ⅰ及びⅡの内容をしっかりと復習しておく必要がある。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	頸部の機能解剖について理解することができる。	柔道整復学 理 論編 改訂第6版 ・ 柔道整復学 実技編 改訂第2 版 骨関節の機能解 剖	柔道整復基礎Ⅲ及び、 柔道整復各論Ⅰ及びⅡ の内容を復習しておく。	
		各コマに おける 授業予定	頸部の機能解剖①			
第2回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	頸腰部の機能解剖について理解することができる。	柔道整復学 理 論編 改訂第6版 ・ 柔道整復学 実技編 改訂第2 版 骨関節の機能解 剖	柔道整復基礎Ⅲ及び、 柔道整復各論Ⅰ及びⅡ の内容を復習しておく。	
		各コマに おける 授業予定	頸部の機能解剖②			
第3回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	頸部の損傷に対する復習と評価法、整復・固定法・後療法につ いて理解することができるようになる。	柔道整復学 理 論編 改訂第6版 ・ 柔道整復学 実技編 改訂第2 版 骨関節の機能解 剖	柔道整復基礎Ⅲ及び、 柔道整復各論Ⅰ及びⅡ の内容を復習しておく。	
		各コマに おける 授業予定	頸部の損傷①			
第4回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	頸部の損傷に対する復習と評価法、整復・固定法・後療法につ いて理解することができるようになる。	柔道整復学 理 論編 改訂第6版 ・ 柔道整復学 実技編 改訂第2 版 骨関節の機能解 剖	柔道整復基礎Ⅲ及び、 柔道整復各論Ⅰ及びⅡ の内容を復習しておく。	
		各コマに おける 授業予定	頸部の損傷②			
第5回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	頸部の損傷に対する復習と評価法、整復・固定法・後療法につ いて理解することができるようになる。	柔道整復学 理 論編 改訂第6版 ・ 柔道整復学 実技編 改訂第2 版 骨関節の機能解 剖	柔道整復基礎Ⅲ及び、 柔道整復各論Ⅰ及びⅡ の内容を復習しておく。	
		各コマに おける 授業予定	頸部の損傷③			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	頸部の損傷に対する復習と評価法、整復・固定法・後療法について理解することができるようになる。	柔道整復学 理論編 改訂第6版 ・ 柔道整復学 実技編 改訂第2版 骨関節の機能解剖	柔道整復基礎Ⅲ及び、柔道整復各論Ⅰ及びⅡの内容を復習しておく。
		各コマにおける授業予定	頸部の損傷④		
第7回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	頸部の損傷に対する復習と評価法、整復・固定法・後療法について理解することができるようになる。	柔道整復学 理論編 改訂第6版 ・ 柔道整復学 実技編 改訂第2版 骨関節の機能解剖	柔道整復基礎Ⅲ及び、柔道整復各論Ⅰ及びⅡの内容を復習しておく。
		各コマにおける授業予定	頸部の損傷⑤		
第8回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	胸腰部の機能解剖について理解することができる。	柔道整復学 理論編 改訂第6版 ・ 柔道整復学 実技編 改訂第2版 骨関節の機能解剖	柔道整復基礎Ⅲ及び、柔道整復各論Ⅰ及びⅡの内容を復習しておく。
		各コマにおける授業予定	胸腰部の機能解剖①		
第9回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	胸腰部の機能解剖について理解することができる。	柔道整復学 理論編 改訂第6版 ・ 柔道整復学 実技編 改訂第2版 骨関節の機能解剖	柔道整復基礎Ⅲ及び、柔道整復各論Ⅰ及びⅡの内容を復習しておく。
		各コマにおける授業予定	胸腰部の機能解剖②		
第10回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	胸腰部の損傷に対する復習と評価法、整復・固定法・後療法について理解することができるようになる。	柔道整復学 理論編 改訂第6版 ・ 柔道整復学 実技編 改訂第2版 骨関節の機能解剖	柔道整復基礎Ⅲ及び、柔道整復各論Ⅰ及びⅡの内容を復習しておく。
		各コマにおける授業予定	胸腰部の損傷①		
第11回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	胸腰部の損傷に対する復習と評価法、整復・固定法・後療法について理解することができるようになる。	柔道整復学 理論編 改訂第6版 ・ 柔道整復学 実技編 改訂第2版 骨関節の機能解剖	柔道整復基礎Ⅲ及び、柔道整復各論Ⅰ及びⅡの内容を復習しておく。
		各コマにおける授業予定	胸腰部の損傷②		
第12回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	胸腰部の損傷に対する復習と評価法、整復・固定法・後療法について理解することができるようになる。	柔道整復学 理論編 改訂第6版 ・ 柔道整復学 実技編 改訂第2版 骨関節の機能解剖	柔道整復基礎Ⅲ及び、柔道整復各論Ⅰ及びⅡの内容を復習しておく。
		各コマにおける授業予定	胸腰部の損傷③		
第13回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	胸腰部の損傷に対する復習と評価法、整復・固定法・後療法について理解することができるようになる。	柔道整復学 理論編 改訂第6版 ・ 柔道整復学 実技編 改訂第2版 骨関節の機能解剖	柔道整復基礎Ⅲ及び、柔道整復各論Ⅰ及びⅡの内容を復習しておく。
		各コマにおける授業予定	胸腰部の損傷④		
第14回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	胸腰部の損傷に対する復習と評価法、整復・固定法・後療法について理解することができるようになる。	柔道整復学 理論編 改訂第6版 ・ 柔道整復学 実技編 改訂第2版 骨関節の機能解剖	柔道整復基礎Ⅲ及び、柔道整復各論Ⅰ及びⅡの内容を復習しておく。
		各コマにおける授業予定	胸腰部の損傷⑤		
第15回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	後期学習内容の復習を行い理解することができるようになる。	柔道整復学 理論編 改訂第6版 ・ 柔道整復学 実技編 改訂第2版 骨関節の機能解剖	柔道整復基礎Ⅲ及び、柔道整復各論Ⅰ及びⅡの内容を復習しておく。
		各コマにおける授業予定	後期まとめ		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	実習
科 目 名	柔整実践実技		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時間	後期	教室名	実技室1
担 当 教 員	松澤 伸也	実務経験とその関連資格	柔道整復師、柔道整復師専科教員資格			
《授業科目における学習内容》						
実例を通して各症例の所見、整復、固定、後療、日常生活の指導法などを学ぶ						
《成績評価の方法と基準》						
実技試験及び記述試験にて評価を行う。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
<ul style="list-style-type: none"> ・「柔道整復学・理論編 改訂第6版」 全国柔道整復学校協会・教科書委員会編・南江堂 ・「柔道整復学・実技編 改訂第2版」 全国柔道整復学校協会・教科書委員会編・南江堂 ・「運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢&下肢・体幹 改訂第3版」メジカルビュー社 						
《授業外における学習方法》						
教科書及び参考書の本読み、実技の練習						
《履修に当たっての留意点》						
国試に合格するための勉学に留まらず、将来自分のあるべき柔道整復師の姿を思い描きながら授業に臨む						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	実習形式	授業を 通じての 到達目標	認定実技試験について理解する。			教科書、参考書による 予習
		各コマに おける 授業予定	オリエンテーション			
第2回	実習形式	授業を 通じての 到達目標	診察・整復実技、固定実技、軟損の徒手検査実技について理解する。			教科書、参考書による 予習、復習、実技練習
		各コマに おける 授業予定	各実技試験に必要なこと、評価内容について			
第3回	実習形式	授業を 通じての 到達目標	鎖骨骨折の診察、整復実技について理解、実践できる。			教科書、参考書による 予習、復習、実技練習
		各コマに おける 授業予定	鎖骨骨折の診察、整復実技			
第4回	実習形式	授業を 通じての 到達目標	鎖骨骨折の診察、整復実技について理解、実践できる。			教科書、参考書による 予習、復習、実技練習
		各コマに おける 授業予定	鎖骨骨折の診察、整復実技			
第5回	実習形式	授業を 通じての 到達目標	鎖骨骨折の診察、整復実技について理解、実践できる。			教科書、参考書による 予習、復習、実技練習
		各コマに おける 授業予定	鎖骨骨折の診察、整復実技			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	実習形式	授業を通じての到達目標	肩関節前方烏口下脱臼の診察、整復実技について理解、実践できる。		教科書、参考書による予習、復習、実技練習
		各コマにおける授業予定	肩関節前方烏口下脱臼の診察、整復実技		
第7回	実習形式	授業を通じての到達目標	肩関節前方烏口下脱臼の診察、整復実技について理解、実践できる。		教科書、参考書による予習、復習、実技練習
		各コマにおける授業予定	肩関節前方烏口下脱臼の診察、整復実技		
第8回	実習形式	授業を通じての到達目標	肩関節前方烏口下脱臼の診察、整復実技について理解、実践できる。		教科書、参考書による予習、復習、実技練習
		各コマにおける授業予定	肩関節前方烏口下脱臼の診察、整復実技		
第9回	実習形式	授業を通じての到達目標	上腕骨外科頸外転型骨折の診察、整復実技についてわかり、実践できる。		教科書、参考書による予習、復習、実技練習
		各コマにおける授業予定	上腕骨外科頸外転型骨折の診察、整復実技		
第10回	実習形式	授業を通じての到達目標	上腕骨外科頸外転型骨折の診察、整復実技についてわかり、実践できる。		教科書、参考書による予習、復習、実技練習
		各コマにおける授業予定	上腕骨外科頸外転型骨折の診察、整復実技		
第11回	実習形式	授業を通じての到達目標	上腕骨外科頸外転型骨折の診察、整復実技についてわかり、実践できる。		教科書、参考書による予習、復習、実技練習
		各コマにおける授業予定	上腕骨外科頸外転型骨折の診察、整復実技		
第12回	実習形式	授業を通じての到達目標	コーレス骨折の診察、整復実技について理解、実践できる。		教科書、参考書による予習、復習、実技練習
		各コマにおける授業予定	コーレス骨折の診察、整復実技		
第13回	実習形式	授業を通じての到達目標	コーレス骨折の診察、整復実技について理解、実践できる。		教科書、参考書による予習、復習、実技練習
		各コマにおける授業予定	コーレス骨折の診察、整復実技		
第14回	実習形式	授業を通じての到達目標	コーレス骨折の診察、整復実技について理解、実践できる。		教科書、参考書による予習、復習、実技練習
		各コマにおける授業予定	コーレス骨折の診察、整復実技		
第15回	実習形式	授業を通じての到達目標	後期試験対策		教科書、参考書による予習、復習、実技練習
		各コマにおける授業予定	まとめ		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	実習
科 目 名	柔道1		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時間	通年 木・2限	教室名	体育館
担 当 教 員	奥出 一貴 難波 浩子	実務経験と その関連資格	柔道整復師 専科教員資格			
《授業科目における学習内容》						
柔道の歴史を学び、創始者である加納治五郎師範の柔道の精神を理解する。柔道整復師として柔道の必要性和、医療人としての人格形成を学ぶ。柔道における受身の完成及び、立技の崩し、作り、掛けを実践してみる。						
《成績評価の方法と基準》						
<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験 70% ・出席 20% ・平常点 10% 						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
イラスト柔道 (五月書房)						
《授業外における学習方法》						
柔道の動画などを利用して、動きやタイミングを学ぶ。						
《履修に当たっての留意点》						
体調やけが、筋肉痛など各自の体の管理をしっかりし、不調がある場合は必ず担当者に伝える。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	基本動作の確認をする。			
		各コマにおける授業予定	基本動作(礼法、受身、かかり練習、約束練習、自由練習)			
第2回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	後受身、横受身、前回り受身などの確認をする。			
		各コマにおける授業予定	基本動作(礼法、受身、かかり練習、約束練習、自由練習)			
第3回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	かかり練習、約束練習でお互い安全に技がかけれる。			
		各コマにおける授業予定	基本動作(礼法、受身、かかり練習、約束練習、自由練習)			
第4回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	対人的技能(投げ技の連絡変化、自由練習)			
		各コマにおける授業予定	基本動作(礼法、受身、かかり練習、約束練習、自由練習)			
第5回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	大越の連絡変化ができる。			
		各コマにおける授業予定	対人的技能(投げ技の連絡変化、自由練習)			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	体落としの連絡変化ができる。		
		各コマにおける授業予定	対人的技能(投げ技の連絡変化、自由練習)		
第7回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	大内刈りの連絡変化ができる。		
		各コマにおける授業予定	対人的技能(投げ技の連絡変化、自由練習)		
第8回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	大外刈りの連絡変化ができる。		
		各コマにおける授業予定	対人的技能(投げ技の連絡変化、自由練習)		
第9回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	内股の連絡変化ができる。		
		各コマにおける授業予定	対人的技能(投げ技の連絡変化、自由練習)		
第10回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	背負投げの連絡変化ができる。		
		各コマにおける授業予定	対人的技能(投げ技の連絡変化、自由練習)		
第11回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	一本背負い投げの連絡変化ができる。		
		各コマにおける授業予定	対人的技能(投げ技の連絡変化、自由練習)		
第12回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	足払いの連絡変化ができる。		
		各コマにおける授業予定	対人的技能(投げ技の連絡変化、自由練習)		
第13回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	投げ技から寝技(袈裟固め)への連絡変化ができる。		
		各コマにおける授業予定	対人的技能(投げ技の連絡変化、自由練習)		
第14回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	投げ技から寝技への連絡変化ができる。		
		各コマにおける授業予定	対人的技能(投げ技の連絡変化、自由練習)		
第15回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	多彩な技を出すことができる。		
		各コマにおける授業予定	前期復習、対戦試合		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	実習
科 目 名	柔道 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (4) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時間	後期	教室名	体育館
担 当 教 員	難波 浩子 奥出 一貴	実務経験と その関連資格	柔道4段 柔道整復師、柔道整復師専科教員資格			
《授業科目における学習内容》						
柔道 I において修得した投げ技を高めるとともに、高度な受け身(背負投、巴投、肩車の受け身)の取得を目標とする。「投の形」の手技、腰技、足技の9種類を受け取りともに身につける。						
《成績評価の方法と基準》						
1 実技試験70% 2 出席20% 3 平常点(グループワーク中の態度発表)10%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
柔道 南江堂						
《授業外における学習方法》						
国際大会 国内大会など中継及びネット配信を興味を持って観戦する。						
《履修に当たっての留意点》						
高度な受け身を習得するとともに 回転運動などを 自分の体調や今までのけがなど考慮し自己管理をして授業に参加する。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	実習形式	授業を通じての到達目標	投げの形について理解できるようになる。	柔道 南江堂	柔道着の確認	
		各コマにおける授業予定	オリエンテーション 投げの形鑑賞			
第2回	実習形式	授業を通じての到達目標	背負い投げの受け身を習得できるようになる。	柔道 南江堂	前回り受身 飛び込みの前回り受身の確認	
		各コマにおける授業予定	背負い投げの原理(受の動き)			
第3回	実習形式	授業を通じての到達目標	背負い投げの投げ方における前回り裁きができるようになる。	柔道 南江堂	すり足 前の移動 横の移動 後ろの移動	
		各コマにおける授業予定	背負い投げの原理(取の動き)			
第4回	実習形式	授業を通じての到達目標	後ろ回り裁きができるようになる。	柔道 南江堂	投げの形と 実践の投げ技の違いの確認	
		各コマにおける授業予定	背負い投げと一本背負い			
第5回	実習形式	授業を通じての到達目標	投げてからの抑え込みと下からの寝技の攻防ができるようになる。	柔道 南江堂	抑え込みの確認 袈裟固め 横四方固め	
		各コマにおける授業予定	寝技での背負い投げ、寝技での肩車			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	実習形式	授業を通じての到達目標	巴投げの受け身ができるようになる。	柔道 南江堂	投げの形での 足の運びの確認
		各コマにおける授業予定	巴投げの原理(受の動き)		
第7回	実習形式	授業を通じての到達目標	巴投げで投げられるようになる。	柔道 南江堂	投げの形での 崩しの確認
		各コマにおける授業予定	巴投げの原理(取の動き)		
第8回	実習形式	授業を通じての到達目標	肩車の取の動き方が理解できるようになる。	柔道 南江堂	相手を楽に持ち上げる方法 足の筋肉を使って
		各コマにおける授業予定	肩車の原理(取り動き)		
第9回	実習形式	授業を通じての到達目標	肩車における現在のルールについて理解できるようになる。	柔道 南江堂	寝技のバリエーションを増やしていく
		各コマにおける授業予定	肩車を使った寝技		
第10回	実習形式	授業を通じての到達目標	投げの形の手技ができるようになる。	柔道 南江堂	投げの形での 足の運びの確認
		各コマにおける授業予定	投げの形(取の動き)		
第11回	実習形式	授業を通じての到達目標	受身の動作および立ち方を理解し、できるようになる。	柔道 南江堂	投げの形での 受身の確認
		各コマにおける授業予定	投げの形(受の動き)		
第12回	実習形式	授業を通じての到達目標	試合のルールを理解できるようになる。昇級を目指す。	柔道 南江堂	指導がくる 要素
		各コマにおける授業予定	試合のルールについて 投げの形(手技の受取)		
第13回	実習形式	授業を通じての到達目標	団体戦の礼法ができるようになる。昇級を目指す。	柔道 南江堂	審判を体験
		各コマにおける授業予定	試合の団体戦の礼法について 投げの形(腰技の受取)		
第14回	実習形式	授業を通じての到達目標	トーナメント試合について理解できるようになる。昇級を目指す。	柔道 南江堂	試合運営の確認
		各コマにおける授業予定	トーナメント試合について 投げの形足技の受取		
第15回	実習形式	授業を通じての到達目標	公式試合に出場できる知識を身につけられるようになる。	柔道 南江堂	投げの形受取両方の習得
		各コマにおける授業予定	まとめ 試験		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー学科		科目区分	専門分野	授業の方法	講義
科目名	柔道整復学・各論 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対象学年	2年		学期及び曜時間	前期 火1	教室名	302教室
担当教員	松澤 伸也	実務経験と その関連資格	柔道整復師免許・柔道整復師専科教員			
《授業科目における学習内容》						
上肢の脱臼・軟部組織損傷について学ぶ。						
《成績評価の方法と基準》						
素点:100%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
柔道整復学・理論編 改訂第7版 解剖学 改訂第2版						
《授業外における学習方法》						
教科書に沿い、講義・国家試験に準じた復習を行う。 講義で使用した口頭試問・四択問題を解く。						
《履修に当たっての留意点》						
基礎となる解剖学を理解する。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を 通じての 到達目標	鎖骨脱臼を理解する。	柔道整復学・理 論編 改訂第7版 解剖学 改訂第2 版	授業範囲の予習・復習	
		各コマに おける 授業予定	胸鎖関節前方脱臼、肩鎖関節上方脱臼			
第2回	講義形式	授業を 通じての 到達目標	肩関節脱臼を理解する。	柔道整復学・理 論編 改訂第7版 解剖学 改訂第2 版	授業範囲の予習・復習	
		各コマに おける 授業予定	肩関節前方脱臼、反復性肩関節脱臼、肩関節後方脱臼、 肩関節下方脱臼、肩関節上方脱臼			
第3回	講義形式	授業を 通じての 到達目標	肘関節脱臼を理解する。	柔道整復学・理 論編 改訂第7版 解剖学 改訂第2 版	授業範囲の予習・復習	
		各コマに おける 授業予定	前腕両骨脱臼、橈骨頭単独脱臼、肘内障			
第4回	講義形式	授業を 通じての 到達目標	手関節脱臼を理解する。	柔道整復学・理 論編 改訂第7版 解剖学 改訂第2 版	授業範囲の予習・復習	
		各コマに おける 授業予定	遠位橈尺関節脱臼、橈骨手根関節脱臼、 月状骨脱臼及び月状骨周囲脱臼			
第5回	講義形式	授業を 通じての 到達目標	手根中手関節脱臼を理解する。	柔道整復学・理 論編 改訂第7版 解剖学 改訂第2 版	授業範囲の予習・復習	
		各コマに おける 授業予定	手根中手(CM)関節脱臼			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	中手指節関節脱臼を理解する。	柔道整復学・理論編 改訂第7版 解剖学 改訂第2版	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	第1指中手指節(MP)関節脱臼、 第1指以外の中手指節(MP)関節脱臼		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	指節間関節脱臼を理解する。	柔道整復学・理論編 改訂第7版 解剖学 改訂第2版	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	近位指節間(PIP)関節脱臼、遠位指節間(DIP)関節脱臼		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	肩関節部の軟部組織損傷を理解する。	柔道整復学・理論編 改訂第7版 解剖学 改訂第2版	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	腱板断裂		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	肩関節部の軟部組織損傷を理解する。	柔道整復学・理論編 改訂第7版 解剖学 改訂第2版	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	上腕二頭筋長頭腱損傷		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	肩関節部の軟部組織損傷を理解する。	柔道整復学・理論編 改訂第7版 解剖学 改訂第2版	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	ベネット損傷～五十肩(凍結肩)		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	上腕部、肘関節部の軟部組織損傷を理解する。	柔道整復学・理論編 改訂第7版 解剖学 改訂第2版	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	橈骨神経損傷～変形性肘関節症		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	前腕部の軟部組織損傷を理解する。	柔道整復学・理論編 改訂第7版 解剖学 改訂第2版	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	前腕コンパートメント症候群～肘部管症候群		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	手関節部の軟部組織損傷を理解する。	柔道整復学・理論編 改訂第7版 解剖学 改訂第2版	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	三角線維軟骨複合体損傷(TFCC損傷)～マーデルング変形		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	手部、指部の軟部組織損傷を理解する。	柔道整復学・理論編 改訂第7版 解剖学 改訂第2版	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	第1MP関節側副靭帯損傷～スワンネック変形		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	上肢の脱臼、軟部組織損傷を理解する。	柔道整復学・理論編 改訂第7版 解剖学 改訂第2版	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	纏め		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	柔道整復学・各論Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (4) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時間	前期 月2.水4	教室名	302教室
担 当 教 員	松澤 伸也	実務経験と その関連資格	柔道整復師 専科教員資格			
《授業科目における学習内容》 四肢の損傷はスポーツ傷害に発生する事が多く、膝関節や足関節はスポーツ傷害に限らず多くの年齢で損傷が発生する。また、大腿部はスポーツ等での損傷がみられる。それらの損傷を知ることにより、柔道整復師として、適切な整復法、固定法、後療法を施術することができるようになることを目標とする。また、運動器を理解するためには、機能解剖を学ぶことが必須である。関節の構造と機能を理解することで、自ら思考する力を身につける。						
《成績評価の方法と基準》 定期試験、小テスト、レポート等で評価する。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》 教科書 ・「柔道整復学・理論編 改訂第6版」 全国柔道整復学校協会・教科書委員会編・南江堂 ・「柔道整復学・実技編 改訂第2版」 全国柔道整復学校協会・教科書委員会編・南江堂						
《授業外における学習方法》 ・予習について、次回授業に該当する範囲を必ず一読し、授業に臨むようにする。 ・復習について、講義でやった内容のノートを確認してから次の講義に臨むようにする。						
《履修に当たっての留意点》 欠課により、休んだ回の内容が完全に無い形で進行するため、欠課がないように気をつける。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第16回	講義形式	授業を 通じての 到達目標	足関節・足部の損傷について理解できる。	柔道整復学 理論 編 柔道整復学 実技 編	予習 膝関節周囲の骨 のランドマーク、筋肉、 神経の再確認 復習 ノートの読み直し	
		各コマに おける 授業予定	足関節部の機能解剖			
第17回	講義形式	授業を 通じての 到達目標	足関節・足部の損傷について理解できる。	柔道整復学 理論 編 柔道整復学 実技 編	予習 膝関節周囲の骨 のランドマーク、筋肉、 神経の再確認 復習 ノートの読み直し	
		各コマに おける 授業予定	下腿骨遠位端部骨折、足根骨骨折、中足・趾骨骨折			
第18回	講義形式	授業を 通じての 到達目標	足関節・足部の損傷について理解できる。	柔道整復学 理論 編 柔道整復学 実技 編	予習 膝関節周囲の骨 のランドマーク、筋肉、 神経の再確認 復習 ノートの読み直し	
		各コマに おける 授業予定	下腿骨遠位端部骨折、足根骨骨折、中足・趾骨骨折			
第19回	講義形式	授業を 通じての 到達目標	足関節・足部の損傷について理解できる。	柔道整復学 理論 編 柔道整復学 実技 編	予習 膝関節周囲の骨 のランドマーク、筋肉、 神経の再確認 復習 ノートの読み直し	
		各コマに おける 授業予定	下腿骨遠位端部骨折、足根骨骨折、中足・趾骨骨折			
第20回	講義形式	授業を 通じての 到達目標	足関節・足部の損傷について理解できる。	柔道整復学 理論 編 柔道整復学 実技 編	予習 膝関節周囲の骨 のランドマーク、筋肉、 神経の再確認 復習 ノートの読み直し	
		各コマに おける 授業予定	下腿骨遠位端部骨折、足根骨骨折、中足・趾骨骨折			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第21回	講義形式	授業を通じての到達目標	下肢の脱臼について理解できる。	柔道整復学 理論編 柔道整復学 実技編	予習 膝関節周囲の骨のランドマーク、筋肉、神経の再確認 復習 ノートの読み直し
		各コマにおける授業予定	股関節脱臼、膝関節脱臼、膝蓋骨脱臼、足部の脱臼		
第22回	講義形式	授業を通じての到達目標	下肢の脱臼について理解できる。	柔道整復学 理論編 柔道整復学 実技編	予習 下腿周囲の骨のランドマーク、筋肉、神経の再確認 復習 ノートの読み直し
		各コマにおける授業予定	股関節脱臼、膝関節脱臼、膝蓋骨脱臼、足部の脱臼		
第23回	講義形式	授業を通じての到達目標	下肢の脱臼について理解できる。	柔道整復学 理論編 柔道整復学 実技編	予習 下腿周囲の骨のランドマーク、筋肉、神経の再確認 復習 ノートの読み直し
		各コマにおける授業予定	股関節脱臼、膝関節脱臼、膝蓋骨脱臼、足部の脱臼		
第24回	講義形式	授業を通じての到達目標	股関節部の軟部組織損傷について理解できる。	柔道整復学 理論編 柔道整復学 実技編	予習 下腿周囲の骨のランドマーク、筋肉、神経の再確認 復習 ノートの読み直し
		各コマにおける授業予定	単径部通症候群、股関節唇損傷、弾発股、梨状筋症候群、その他		
第25回	講義形式	授業を通じての到達目標	股関節部の軟部組織損傷について理解できる。	柔道整復学 理論編 柔道整復学 実技編	予習 下腿周囲の骨のランドマーク、筋肉、神経の再確認 復習 ノートの読み直し
		各コマにおける授業予定	単径部通症候群、股関節唇損傷、弾発股、梨状筋症候群、その他		
第26回	講義形式	授業を通じての到達目標	股関節部の軟部組織損傷について理解できる。	柔道整復学 理論編 柔道整復学 実技編	予習 足関節、足部の骨のランドマーク、筋肉、神経の再確認 復習 ノートの読み直し
		各コマにおける授業予定	単径部通症候群、股関節唇損傷、弾発股、梨状筋症候群、その他		
第27回	講義形式	授業を通じての到達目標	股関節部の軟部組織損傷について理解できる。	柔道整復学 理論編 柔道整復学 実技編	予習 足関節、足部の骨のランドマーク、筋肉、神経の再確認 復習 ノートの読み直し
		各コマにおける授業予定	単径部通症候群、股関節唇損傷、弾発股、梨状筋症候群、その他		
第28回	講義形式	授業を通じての到達目標	大腿部の軟部組織損傷について理解できる。	柔道整復学 理論編 柔道整復学 実技編	予習 足関節、足部の骨のランドマーク、筋肉、神経の再確認 復習 ノートの読み直し
		各コマにおける授業予定	大腿部打撲、大腿部肉ばなれ		
第29回	講義形式	授業を通じての到達目標	大腿部の軟部組織損傷について理解できる。	柔道整復学 理論編 柔道整復学 実技編	予習 足関節、足部の骨のランドマーク、筋肉、神経の再確認 復習 ノートの読み直し
		各コマにおける授業予定	大腿部打撲、大腿部肉ばなれ		
第30回	講義形式	授業を通じての到達目標	膝関節部の軟部組織損傷について理解できる。	柔道整復学 理論編 柔道整復学 実技編	復習
		各コマにおける授業予定	半月板、靭帯、発育期、腸脛靭帯炎、鵞足炎、膝蓋大腿関節障害、関節包・滑液包炎、神経障害		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	柔道整復学・各論Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (4) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	前期 月2.水4	教室名	302教室
担 当 教 員	松澤 伸也	実務経験と その関連資格	柔道整復師 専科教員資格			
<p>《授業科目における学習内容》</p> <p>四肢の損傷はスポーツ傷害に発生する事が多く、膝関節や足関節はスポーツ傷害に限らず多くの年齢で損傷が発生する。また、大腿部はスポーツ等での損傷がみられる。それらの損傷を知ることにより、柔道整復師として、適切な整復法、固定法、後療法を施術することができるようになることを目標とする。また、運動器を理解するためには、機能解剖を学ぶことが必須である。関節の構造と機能を理解することで、自ら思考する力を身につける。</p>						
<p>《成績評価の方法と基準》</p> <p>定期試験、小テスト、レポート等で評価する。</p>						
<p>《使用教材(教科書)及び参考図書》</p> <p>教科書 ・「柔道整復学・理論編 改訂第6版」 全国柔道整復学校協会・教科書委員会編・南江堂 ・「柔道整復学・実技編 改訂第2版」 全国柔道整復学校協会・教科書委員会編・南江堂</p>						
<p>《授業外における学習方法》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予習について、次回授業に該当する範囲を必ず一読し、授業に臨むようにする。 ・復習について、講義でやった内容のノートを確認してから次の講義に臨むようにする。 						
<p>《履修に当たっての留意点》</p> <p>欠課により、休んだ回の内容が完全に無い形で進行するため、欠課がないように気をつける。</p>						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第31回	講義形式	授業を通じての到達目標	膝関節部の軟部組織損傷について理解できる。	柔道整復学 理論編 柔道整復学 実技編	復習	
		各コマにおける授業予定	半月板、靭帯、発育期、腸脛靭帯炎、鷲足炎、膝蓋大腿関節障害、関節包・滑液包炎、神経障害			
第32回	講義形式	授業を通じての到達目標	膝関節部の軟部組織損傷について理解できる。	柔道整復学 理論編 柔道整復学 実技編	予習 膝関節周囲の骨のランドマーク、筋肉、神経の再確認 復習 ノートの読み直し	
		各コマにおける授業予定	半月板、靭帯、発育期、腸脛靭帯炎、鷲足炎、膝蓋大腿関節障害、関節包・滑液包炎、神経障害			
第33回	講義形式	授業を通じての到達目標	膝関節部の軟部組織損傷について理解できる。	柔道整復学 理論編 柔道整復学 実技編	予習 膝関節周囲の骨のランドマーク、筋肉、神経の再確認 復習 ノートの読み直し	
		各コマにおける授業予定	半月板、靭帯、発育期、腸脛靭帯炎、鷲足炎、膝蓋大腿関節障害、関節包・滑液包炎、神経障害			
第34回	講義形式	授業を通じての到達目標	膝関節部の軟部組織損傷について理解できる。	柔道整復学 理論編 柔道整復学 実技編	予習 膝関節周囲の骨のランドマーク、筋肉、神経の再確認 復習 ノートの読み直し	
		各コマにおける授業予定	半月板、靭帯、発育期、腸脛靭帯炎、鷲足炎、膝蓋大腿関節障害、関節包・滑液包炎、神経障害			
第35回	講義形式	授業を通じての到達目標	膝関節部の軟部組織損傷について理解できる。	柔道整復学 理論編 柔道整復学 実技編	予習 膝関節周囲の骨のランドマーク、筋肉、神経の再確認 復習 ノートの読み直し	
		各コマにおける授業予定	半月板、靭帯、発育期、腸脛靭帯炎、鷲足炎、膝蓋大腿関節障害、関節包・滑液包炎、神経障害			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第36回	講義形式	授業を通じての到達目標	下腿部の軟部組織損傷について理解できる。	柔道整復学 理論編 柔道整復学 実技編	予習 膝関節周囲の骨のランドマーク、筋肉、神経の再確認 復習 ノートの読み直し
		各コマにおける授業予定	アキレス腱炎、アキレス腱周囲炎、アキレス腱断裂について。		
第37回	講義形式	授業を通じての到達目標	下腿部の軟部組織損傷について理解できる。	柔道整復学 理論編 柔道整復学 実技編	予習 下腿周囲の骨のランドマーク、筋肉、神経の再確認 復習 ノートの読み直し
		各コマにおける授業予定	アキレス腱炎、アキレス腱周囲炎、アキレス腱断裂、下腿三頭筋肉ばなれ、スポーツ障害		
第38回	講義形式	授業を通じての到達目標	下腿部の軟部組織損傷について理解できる。	柔道整復学 理論編 柔道整復学 実技編	予習 下腿周囲の骨のランドマーク、筋肉、神経の再確認 復習 ノートの読み直し
		各コマにおける授業予定	アキレス腱炎、アキレス腱周囲炎、アキレス腱断裂、下腿三頭筋肉ばなれ、スポーツ障害		
第39回	講義形式	授業を通じての到達目標	下腿部の軟部組織損傷について理解できる。	柔道整復学 理論編 柔道整復学 実技編	予習 下腿周囲の骨のランドマーク、筋肉、神経の再確認 復習 ノートの読み直し
		各コマにおける授業予定	アキレス腱炎、アキレス腱周囲炎、アキレス腱断裂、下腿三頭筋肉ばなれ、スポーツ障害		
第40回	講義形式	授業を通じての到達目標	足関節・足部の軟部組織損傷について理解できる。	柔道整復学 理論編 柔道整復学 実技編	予習 下腿周囲の骨のランドマーク、筋肉、神経の再確認 復習 ノートの読み直し
		各コマにおける授業予定	足関節捻挫、類症鑑別、後足部から前足部の有痛性疾患、扁平足障害		
第41回	講義形式	授業を通じての到達目標	足関節・足部の軟部組織損傷について理解できる。	柔道整復学 理論編 柔道整復学 実技編	予習 足関節、足部の骨のランドマーク、筋肉、神経の再確認 復習 ノートの読み直し
		各コマにおける授業予定	足関節捻挫、類症鑑別、後足部から前足部の有痛性疾患、扁平足障害		
第42回	講義形式	授業を通じての到達目標	足関節・足部の軟部組織損傷について理解できる。	柔道整復学 理論編 柔道整復学 実技編	予習 足関節、足部の骨のランドマーク、筋肉、神経の再確認 復習 ノートの読み直し
		各コマにおける授業予定	足関節捻挫、類症鑑別、後足部から前足部の有痛性疾患、扁平足障害		
第43回	講義形式	授業を通じての到達目標	下肢の外傷・障害まとめ	柔道整復学 理論編 柔道整復学 実技編	復習
		各コマにおける授業予定	問題演習		
第44回	講義形式	授業を通じての到達目標	下肢の外傷・障害まとめ	柔道整復学 理論編 柔道整復学 実技編	復習
		各コマにおける授業予定	問題演習		
第45回	講義形式	授業を通じての到達目標	下肢の外傷・障害まとめ	柔道整復学 理論編 柔道整復学 実技編	復習
		各コマにおける授業予定	問題演習		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	柔道整復学基礎 I (総合的対策)		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	2年		学期及び曜時間	後期 水曜	教室名	302教室
担 当 教 員	井上晃一	実務経験と その関連資格	接骨院開業経験 柔道整復師免許 柔道整復師専科教員資格			
《授業科目における学習内容》						
柔道整復学・各論 I 上肢・下肢の復習と対策						
《成績評価の方法と基準》						
筆記試験 100%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
柔道整復学・理論編 改訂第7版						
《授業外における学習方法》						
教科書の本読み、対策プリントの復習						
《履修に当たっての留意点》						
柔道整復学・各論は国家試験や臨床現場で重要な科目であり、反復的な学習や対策の必要がある。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	鎖骨骨折について柔整理論の復習を行い、理解を深めることができるようになる。	柔道整復学・理論編改訂第7版 対策プリント	教科書の本読み 対策プリントの復習	
		各コマにおける授業予定	鎖骨の損傷(骨折)復習と対策			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	鎖骨の脱臼、肩関節部の骨折について柔整理論の復習を行い、理解を深めることができるようになる。	柔道整復学・理論編改訂第7版 対策プリント	教科書の本読み 対策プリントの復習	
		各コマにおける授業予定	鎖骨の損傷(脱臼)、肩関節部(骨折)復習と対策			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	肩関節部・上腕部の骨折について柔整理論の復習を行い、理解を深めることができるようになる。	柔道整復学・理論編改訂第7版 対策プリント	教科書の本読み 対策プリントの復習	
		各コマにおける授業予定	肩関節部・上腕部の損傷(骨折)復習と対策			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	肩関節脱臼について柔整理論の復習を行い、理解を深めることができるようになる。	柔道整復学・理論編改訂第7版 対策プリント	教科書の本読み 対策プリントの復習	
		各コマにおける授業予定	肩関節部(脱臼)復習と対策			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	上腕骨遠位部骨折について柔整理論の復習を行い、理解を深めることができるようになる。	柔道整復学・理論編改訂第7版 対策プリント	教科書の本読み 対策プリントの復習	
		各コマにおける授業予定	上腕骨遠位部(骨折)復習と対策			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	前腕骨近位部骨折について柔整理論の復習を行い、理解を深めることができるようになる。	柔道整復学・理論編改訂第7版 対策プリント	教科書の本読み 対策プリントの復習
		各コマにおける授業予定	前腕部近位部(骨折・脱臼)復習と対策		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	前腕骨骨折について柔整理論の復習を行い、理解を深めることができるようになる。	柔道整復学・理論編改訂第7版 対策プリント	教科書の本読み 対策プリントの復習
		各コマにおける授業予定	前腕骨幹部(骨折)復習と対策		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	手関節部の骨折・脱臼について柔整理論の復習を行い、理解を深めることができるようになる。	柔道整復学・理論編改訂第7版 対策プリント	教科書の本読み 対策プリントの復習
		各コマにおける授業予定	手関節部(骨折・脱臼)復習と対策		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	手・手指部の骨折・脱臼について柔整理論の復習を行い、理解を深めることができるようになる。	柔道整復学・理論編改訂第7版 対策プリント	教科書の本読み 対策プリントの復習
		各コマにおける授業予定	手・指部の損傷(骨折・脱臼)復習と対策		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	大腿骨近位端骨折、股関節脱臼について柔整理論の復習を行い、理解を深めることができるようになる。	柔道整復学・理論編改訂第7版 対策プリント	教科書の本読み 対策プリントの復習
		各コマにおける授業予定	股関節部の損傷(大腿近位端骨折・股関節脱臼)復習と対策		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	大腿部・膝関節部の骨折について柔整理論の復習を行い、理解を深めることができるようになる。	柔道整復学・理論編改訂第7版 対策プリント	教科書の本読み 対策プリントの復習
		各コマにおける授業予定	大腿部損傷(骨折)膝関節部損傷(骨折)復習と対策		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	膝関節部の骨折・脱臼について柔整理論の復習を行い、理解を深めることができるようになる。	柔道整復学・理論編改訂第7版 対策プリント	教科書の本読み 対策プリントの復習
		各コマにおける授業予定	膝関節部の損傷(骨折・脱臼)復習と対策		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	下腿部の骨折について柔整理論の復習を行い、理解を深めることができるようになる。	柔道整復学・理論編改訂第7版 対策プリント	教科書の本読み 対策プリントの復習
		各コマにおける授業予定	下腿部の損傷(骨折)復習と対策		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	足部の骨折・脱臼について柔整理論の復習を行い、理解を深めることができるようになる。	柔道整復学・理論編改訂第7版 対策プリント	教科書の本読み 対策プリントの復習
		各コマにおける授業予定	足部の損傷(骨折・脱臼)復習と対策		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	足・足趾の骨折・脱臼について柔整理論の復習を行い、理解を深めることができるようになる。	柔道整復学・理論編改訂第7版 対策プリント	教科書の本読み 対策プリントの復習
		各コマにおける授業予定	足・足趾の損傷(骨折・脱臼)復習と対策		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	柔道整復学基礎 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	2年		学期及び曜時間	通年 水曜	教室名	301
担 当 教 員	松澤 伸也	実務経験と その関連資格	柔道整復師 柔道整復師専科教員			
《授業科目における学習内容》						
柔道整復における外傷、障害の理解を進めるために、柔道整復学と基礎医学(解剖学、生理学、運動学、栄養学など)、スポーツ科学(コンディショニング、トレーニングなど)について、横断的に学習を進める。						
《成績評価の方法と基準》						
期末試験及び小テスト、レポート等で判定する。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
柔道整復学理論編、解剖学、生理学、運動学、健康運動実践指導者養成テキスト、トレーニング指導者養成テキスト、授業資料など						
《授業外における学習方法》						
各内容の講義の復習、資料整理など						
《履修に当たっての留意点》						
復習をしっかりとしておく。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	講義概要が理解できる。	PC、教科書、資 料など	各科目の復習	
		各コマに おける 授業予定	オリエンテーション、講義内課題(ワーク)			
第2回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	資格試験合格に向けた自己の理解度、到達度がわかる。	PC、教科書、資 料など	各科目の復習	
		各コマに おける 授業予定	小テスト、講義内課題(ワーク)			
第3回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	資格試験合格に向けた自己の理解度、到達度がわかる。	PC、教科書、資 料など	各科目の復習	
		各コマに おける 授業予定	小テスト、講義内課題(ワーク)			
第4回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	資格試験合格に向けた自己の理解度、到達度がわかる。	PC、教科書、資 料など	各科目の復習	
		各コマに おける 授業予定	小テスト、講義内課題(ワーク)			
第5回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	資格試験合格に向けた自己の理解度、到達度がわかる。	PC、教科書、資 料など	各科目の復習	
		各コマに おける 授業予定	小テスト、講義内課題(ワーク)			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	資格試験合格に向けた自己の理解度、到達度がわかる。	PC、教科書、資料など	各科目の復習
		各コマにおける授業予定	小テスト、講義内課題(ワーク)		
第7回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	資格試験合格に向けた自己の理解度、到達度がわかる。	PC、教科書、資料など	各科目の復習
		各コマにおける授業予定	小テスト、講義内課題(ワーク)		
第8回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	資格試験合格に向けた自己の理解度、到達度がわかる。	PC、教科書、資料など	各科目の復習
		各コマにおける授業予定	小テスト、講義内課題(ワーク)		
第9回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	資格試験合格に向けた自己の理解度、到達度がわかる。	PC、教科書、資料など	各科目の復習
		各コマにおける授業予定	小テスト、講義内課題(ワーク)		
第10回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	資格試験合格に向けた自己の理解度、到達度がわかる。	PC、教科書、資料など	各科目の復習
		各コマにおける授業予定	小テスト、講義内課題(ワーク)		
第11回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	資格試験合格に向けた自己の理解度、到達度がわかる。	PC、教科書、資料など	各科目の復習
		各コマにおける授業予定	小テスト、講義内課題(ワーク)		
第12回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	資格試験合格に向けた自己の理解度、到達度がわかる。	PC、教科書、資料など	各科目の復習
		各コマにおける授業予定	小テスト、講義内課題(ワーク)		
第13回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	資格試験合格に向けた自己の理解度、到達度がわかる。	PC、教科書、資料など	各科目の復習
		各コマにおける授業予定	小テスト、講義内課題(ワーク)		
第14回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	資格試験合格に向けた自己の理解度、到達度がわかる。	PC、教科書、資料など	各科目の復習
		各コマにおける授業予定	小テスト、講義内課題(ワーク)		
第15回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	資格試験合格に向けた自己の理解度、到達度がわかる。	PC、教科書、資料など	各科目の復習
		各コマにおける授業予定	小テスト、講義内課題(ワーク)		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー学科		科目区分	専門分野	授業の方法	講義
科目名	柔道整復学・各論Ⅲ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対象学年	2年		学期及び曜時間	後期	教室名	302教室
担当教員	松澤 伸也	実務経験と その関連資格	柔道整復師 専科教員資格			
《授業科目における学習内容》						
頭部・体幹の骨折 頭部・顔面の脱臼 頭部・体幹の軟部組織損傷						
《成績評価の方法と基準》						
定期試験100%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
柔道整復学・理論編 改訂第7版 柔道整復学・実技編 改訂第2版						
《授業外における学習方法》						
教科書に沿い、講義・国家試験に準じた復習を行う。 講義で使用した口頭試問問題・四択問題を解く。						
《履修に当たっての留意点》						
基礎となる解剖学を理解すること。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	頭部・顔面部の骨折の理解を深める。	柔道整復学・理論編 改訂第7版 柔道整復学・実技編 改訂第2版	授業範囲の予習・復習	
		各コマにおける授業予定	頭部・顔面部の解剖学 頭部・顔面部の骨折			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	頸椎の骨折の理解を深める。	柔道整復学・理論編 改訂第7版 柔道整復学・実技編 改訂第2版	授業範囲の予習・復習	
		各コマにおける授業予定	頸椎の解剖学 頸椎の骨折①			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	頸椎の骨折の理解を深める。	柔道整復学・理論編 改訂第7版 柔道整復学・実技編 改訂第2版	授業範囲の予習・復習	
		各コマにおける授業予定	頸椎の骨折②			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	胸椎の骨折の理解を深める。	柔道整復学・理論編 改訂第7版 柔道整復学・実技編 改訂第2版	授業範囲の予習・復習	
		各コマにおける授業予定	胸椎の解剖学 胸椎の骨折			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	腰椎の骨折の理解を深める。	柔道整復学・理論編 改訂第7版 柔道整復学・実技編 改訂第2版	授業範囲の予習・復習	
		各コマにおける授業予定	腰椎の解剖学 腰椎の骨折			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	胸部の骨折の理解を深める。	柔道整復学・理論編 改訂第7版 柔道整復学・実技編 改訂第2版	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	胸部の解剖学 胸部の骨折		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	確認テストにより現状を把握し、弱点克服に努める。	柔道整復学・理論編 改訂第7版 柔道整復学・実技編 改訂第2版	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	確認テスト(頭部・体幹の骨折)		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	顎関節脱臼の理解を深める。	柔道整復学・理論編 改訂第7版 柔道整復学・実技編 改訂第2版	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	顎関節の解剖学 顎関節脱臼		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	頸椎・胸椎・腰椎の脱臼の理解を深める。	柔道整復学・理論編 改訂第7版 柔道整復学・実技編 改訂第2版	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	頸椎・胸椎・腰椎の脱臼		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	確認テストにより現状を把握し、弱点克服に努める。	柔道整復学・理論編 改訂第7版 柔道整復学・実技編 改訂第2版	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	確認テスト(頭部・顔面の脱臼)		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	頭部・顔面部の軟部組織損傷の理解を深める。	柔道整復学・理論編 改訂第7版 柔道整復学・実技編 改訂第2版	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	頭部・顔面部の解剖学 頭部・顔面部の軟部組織損傷		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	頸部の軟部組織損傷の理解を深める。	柔道整復学・理論編 改訂第7版 柔道整復学・実技編 改訂第2版	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	頸部の解剖学 頸部の軟部組織損傷		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	胸・背部の軟部組織損傷の理解を深める。	柔道整復学・理論編 改訂第7版 柔道整復学・実技編 改訂第2版	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	胸・背部の解剖学 胸・背部の軟部組織損傷		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	腰部の軟部組織損傷の理解を深める。	柔道整復学・理論編 改訂第7版 柔道整復学・実技編 改訂第2版	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	腰部の解剖学 腰部の軟部組織損傷		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	確認テストにより現状を把握し、弱点克服に努める。	柔道整復学・理論編 改訂第7版 柔道整復学・実技編 改訂第2版	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	確認テスト(頭部・体幹の軟部組織損傷)		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー学科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	柔道整復演習Ⅳ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (4) 時間(単位)
対 象 学 年	2年		学期及び曜時間	後期	教室名	302教室
担 当 教 員	松澤 伸也	実務経験と その関連資格	柔道整復師、柔道整復師専科教員、鍼灸師			
《授業科目における学習内容》						
研究に必要な基礎知識や研究方法などを学び、指導教員とディスカッションを交えて行う。論文の意義やエビデンスについてを理解した上で研究の進め方、組立て、研究デザイン、データの収集、解析法を学んでいく。						
《成績評価の方法と基準》						
出席及び、課題の提出物、ディスカッションへの参加度を総合的に評価する。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
配布資料						
《授業外における学習方法》						
授業時間外での情報収集などが必要となるので、図書館を利用して情報を収集出来るようにする。						
《履修に当たっての留意点》						
データの解析には、統計処理が必要となり、また、発表にはスライドの作成技術が必要となる。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	演習を通じての到達目標	予備実験の被検者からデータを集める事が出来るようになる。		資料の配布	特記事項無し	
	各コマにおける授業予定	予備実験とデータ採取				
第2回	演習を通じての到達目標	予備実験の被検者からデータを集める事が出来るようになる。		資料の配布	特記事項無し	
	各コマにおける授業予定	予備実験とデータ採取				
第3回	演習を通じての到達目標	予備実験の被検者からデータを集める事が出来るようになる。		資料の配布	特記事項無し	
	各コマにおける授業予定	予備実験とデータ採取				
第4回	演習を通じての到達目標	予備実験の被検者からデータを集める事が出来るようになる。		資料の配布	特記事項無し	
	各コマにおける授業予定	予備実験とデータ採取				
第5回	演習を通じての到達目標	予備実験の被検者からデータを集める事が出来るようになる。		資料の配布	特記事項無し	
	各コマにおける授業予定	予備実験とデータ採取				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	本実験の被検者を確定し、データを集める事が出来るようになる。	資料の配布	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	本実験データ採取		
第7回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	本実験の被検者を確定し、データを集める事が出来るようになる。	資料の配布	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	本実験データ採取		
第8回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	本実験の被検者を確定し、データを集める事が出来るようになる。	資料の配布	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	本実験データ採取		
第9回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	本実験の被検者を確定し、データを集める事が出来るようになる。	資料の配布	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	本実験データ採取		
第10回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	本実験の被検者を確定し、データを集める事が出来るようになる。	資料の配布	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	本実験データ採取		
第11回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	本実験の被検者を確定し、データを集める事が出来るようになる。	資料の配布	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	本実験データ採取		
第12回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	本実験の被検者を確定し、データを集める事が出来るようになる。	資料の配布	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	本実験データ採取		
第13回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	本実験の被検者を確定し、データを集める事が出来るようになる。	資料の配布	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	本実験データ採取		
第14回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	本実験の被検者を確定し、データを集める事が出来るようになる。	資料の配布	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	本実験データ採取		
第15回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	本実験の被検者を確定し、データを集める事が出来るようになる。	資料の配布	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	本実験データ採取		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー学科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	柔道整復演習IV		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (4) 時間(単位)
対 象 学 年	2年		学期及び曜時間	後期	教室名	302教室
担 当 教 員	松澤 伸也	実務経験と その関連資格	柔道整復師、柔道整復師専科教員、鍼灸師			
《授業科目における学習内容》						
研究に必要な基礎知識や研究方法などを学び、指導教員とディスカッションを交えて行う。論文の意義やエビデンスについてを理解した上で研究の進め方、組立て、研究デザイン、データの収集、解析法を学んでいく。						
《成績評価の方法と基準》						
出席及び、課題の提出物、ディスカッションへの参加度を総合的に評価する。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
配布資料						
《授業外における学習方法》						
授業時間外での情報収集などが必要となるので、図書館を利用して情報を収集出来るようにする。						
《履修に当たっての留意点》						
データの解析には、統計処理が必要となり、また、発表にはスライドの作成技術が必要となる。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第16回	演習を通じての到達目標	データを整理し統計に掛ける事が出来るようになる。		資料の配布	特記事項無し	
	各コマにおける授業予定	対応のあるt検定と有意差				
第17回	演習を通じての到達目標	データを整理し統計に掛ける事が出来るようになる。		資料の配布	特記事項無し	
	各コマにおける授業予定	対応のあるt検定と有意差				
第18回	演習を通じての到達目標	データを整理し統計に掛ける事が出来るようになる。		資料の配布	特記事項無し	
	各コマにおける授業予定	対応のあるt検定と有意差				
第19回	演習を通じての到達目標	データを整理し統計に掛ける事が出来るようになる。		資料の配布	特記事項無し	
	各コマにおける授業予定	対応のあるt検定と有意差				
第20回	演習を通じての到達目標	データを整理し統計に掛ける事が出来るようになる。		資料の配布	特記事項無し	
	各コマにおける授業予定	対応のあるt検定と有意差				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第21回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	抄録の執筆とプレゼンテーションが出来るようになる。	資料の配布	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	論文作成と発表PowerPointの作成		
第22回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	抄録の執筆とプレゼンテーションが出来るようになる。	資料の配布	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	論文作成と発表PowerPointの作成		
第23回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	抄録の執筆とプレゼンテーションが出来るようになる。	資料の配布	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	論文作成と発表PowerPointの作成		
第24回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	抄録の執筆とプレゼンテーションが出来るようになる。	資料の配布	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	論文作成と発表PowerPointの作成		
第25回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	抄録の執筆とプレゼンテーションが出来るようになる。	資料の配布	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	論文作成と発表PowerPointの作成		
第26回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	抄録の執筆とプレゼンテーションが出来るようになる。	資料の配布	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	論文作成と発表PowerPointの作成		
第27回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	抄録の執筆とプレゼンテーションが出来るようになる。	資料の配布	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	論文作成と発表PowerPointの作成		
第28回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	抄録の執筆とプレゼンテーションが出来るようになる。	資料の配布	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	論文作成と発表PowerPointの作成		
第29回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	課題研究発表に向けての準備が全て出来るようになる。	資料の配布	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	最終まとめと発表準備		
第30回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	課題研究発表が出来るようになる。	資料の配布	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	PowerPointでaudienceの前で発表		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	柔道整復演習IV		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	150 (10) 時間(単位)
対 象 学 年	2年		学期及び曜時間	通年 火,木	教室名	302
担 当 教 員	松澤 伸也	実務経験と その関連資格	柔道整復師免許・柔道整復師専科教員			
《授業科目における学習内容》						
研究に必要な基礎知識や研究方法などを学び、指導教員とディスカッションを交えて行う。論文の意義やエビデンスについてを理解した上で研究の進め方、組立て、研究デザイン、データの収集、解析法を学んでいく。						
《成績評価の方法と基準》						
出席及び課題の提出物、ディスカッションへの参加、論文の作成状況などを総合的に評価する。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
配布資料						
《授業外における学習方法》						
授業時間外での情報収集などが必要となるので、図書館を利用して情報を収集出来るようにする。						
《履修に当たっての留意点》						
データの解析には、統計処理が必要となり、また、発表にはスライドの作成技術が必要となる。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第 16 回	講義 演習 形式	授業を 通じての 到達目標	論文の構成について理解することができるようになる。	資料の配布	特記事項無し	
		各コマに おける 授業予定	論文の内容を説明する 講義ワーク			
第 17 回	講義 演習 形式	授業を 通じての 到達目標	論文の構成について理解することができるようになる。	資料の配布	特記事項無し	
		各コマに おける 授業予定	論文の内容を説明する 講義ワーク			
第 18 回	講義 演習 形式	授業を 通じての 到達目標	論文の構成について理解することができるようになる。	資料の配布	特記事項無し	
		各コマに おける 授業予定	論文の内容を説明する 講義ワーク			
第 19 回	講義 演習 形式	授業を 通じての 到達目標	論文の構成について理解することができるようになる。	資料の配布	特記事項無し	
		各コマに おける 授業予定	論文の内容を説明する 講義ワーク			
第 20 回	講義 演習 形式	授業を 通じての 到達目標	論文の構成について理解することができるようになる。	資料の配布	特記事項無し	
		各コマに おける 授業予定	論文の内容を説明する 講義ワーク			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第21回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	論文の構成について理解することができるようになる。	資料の配布	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	論文の内容を説明する 講義ワーク		
第22回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	論文の構成について理解することができるようになる。	資料の配布	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	論文の内容を説明する 講義ワーク		
第23回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	論文の構成について理解することができるようになる。	資料の配布	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	論文の内容を説明する 講義ワーク		
第24回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	論文の構成について理解することができるようになる。	資料の配布	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	論文の内容を説明する 講義ワーク		
第25回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	論文の構成について理解することができるようになる。	資料の配布	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	論文の内容を説明する 講義ワーク		
第26回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	論文の構成について理解することができるようになる。	資料の配布	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	論文の内容を説明する 講義ワーク		
第27回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	論文の構成について理解することができるようになる。	資料の配布	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	論文の内容を説明する 講義ワーク		
第28回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	論文の構成について理解することができるようになる。	資料の配布	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	論文の内容を説明する 講義ワーク		
第29回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	論文の構成について理解することができるようになる。	資料の配布	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	論文の内容を説明する 講義ワーク		
第30回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	論文の構成について理解することができるようになる。	資料の配布	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	論文の内容を説明する 講義ワーク		

2026 年度 授業計画(シラバス)

2026	柔道整復スポーツトレーナー学科	科目区分	専門分野	授業の方法	講義演習
科目名	柔道整復演習IV	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	150 (10) 時間(単位)
対象学年	2年	学期及び曜時間	通年 火,木	教室名	302
担当教員	松澤 伸也	実務経験と その関連資格	柔道整復師免許・柔道整復師専科教員		
《授業科目における学習内容》					
研究に必要な基礎知識や研究方法などを学び、指導教員とディスカッションを交えて行う。論文の意義やエビデンスについてを理解した上で研究の進め方、組立て、研究デザイン、データの収集、解析法を学んでいく。					
《成績評価の方法と基準》					
出席及び課題の提出物、ディスカッションへの参加、論文の作成状況などを総合的に評価する。					
《使用教材(教科書)及び参考図書》					
配布資料					
《授業外における学習方法》					
授業時間外での情報収集などが必要となるので、図書館を利用して情報を収集出来るようにする。					
《履修に当たっての留意点》					
データの解析には、統計処理が必要となり、また、発表にはスライドの作成技術が必要となる。					
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第31回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	論文を読んでもみる事ができるようになる。	資料の配布	特記事項無し
	各コマにおける授業予定	論文を読み、内容を説明することができる。			
第32回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	論文を読んでもみる事ができるようになる。	資料の配布	特記事項無し
	各コマにおける授業予定	論文を読み、内容を説明することができる。			
第33回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	論文を読んでもみる事ができるようになる。	資料の配布	特記事項無し
	各コマにおける授業予定	論文を読み、内容を説明することができる。			
第34回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	論文を読んでもみる事ができるようになる。	資料の配布	特記事項無し
	各コマにおける授業予定	論文を読み、内容を説明することができる。			
第35回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	論文を読んでもみる事ができるようになる。	資料の配布	特記事項無し
	各コマにおける授業予定	論文を読み、内容を説明することができる。			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第36回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	論文を読んでみる事ができるようになる。	資料の配布	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	論文を読み、内容を説明することができる。		
第37回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	論文を読んでみる事ができるようになる。	資料の配布	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	論文を読み、内容を説明することができる。		
第38回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	論文を読んでみる事ができるようになる。	資料の配布	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	論文を読み、内容を説明することができる。		
第39回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	論文を読んでみる事ができるようになる。	資料の配布	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	論文を読み、内容を説明することができる。		
第40回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	論文を読んでみる事ができるようになる。	資料の配布	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	論文を読み、内容を説明することができる。		
第41回	演習形式	授業を通じての到達目標	研究テーマについて考えることが出来るようになる。	資料の配布	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	研究テーマの設定、情報収集、計画立案、予備実験		
第42回	演習形式	授業を通じての到達目標	研究テーマについて考えることが出来るようになる。	資料の配布	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	研究テーマの設定、情報収集、計画立案、予備実験		
第43回	演習形式	授業を通じての到達目標	研究テーマについて考えることが出来るようになる。	資料の配布	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	研究テーマの設定、情報収集、計画立案、予備実験		
第44回	演習形式	授業を通じての到達目標	研究テーマについて考えることが出来るようになる。	資料の配布	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	研究テーマの設定、情報収集、計画立案、予備実験		
第45回	演習形式	授業を通じての到達目標	研究テーマについて考えることが出来るようになる。	資料の配布	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	研究テーマの設定、情報収集、計画立案、予備実験		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	柔道整復演習IV		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	150 (10) 時間(単位)
対 象 学 年	2年		学期及び曜時間	通年 火,木	教室名	302
担 当 教 員	松澤 伸也	実務経験と その関連資格	柔道整復師免許・柔道整復師専科教員			
《授業科目における学習内容》						
研究に必要な基礎知識や研究方法などを学び、指導教員とディスカッションを交えて行う。論文の意義やエビデンスについてを理解した上で研究の進め方、組立て、研究デザイン、データの収集、解析法を学んでいく。						
《成績評価の方法と基準》						
出席及び課題の提出物、ディスカッションへの参加、論文の作成状況などを総合的に評価する。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
配布資料						
《授業外における学習方法》						
授業時間外での情報収集などが必要となるので、図書館を利用して情報を収集出来るようにする。						
《履修に当たっての留意点》						
データの解析には、統計処理が必要となり、また、発表にはスライドの作成技術が必要となる。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第 46 回	演習形式	授業を通じての到達目標	研究テーマについて考えることが出来るようになる。	資料の配布	特記事項無し	
		各コマにおける授業予定	研究テーマの設定、情報収集、計画立案、予備実験			
第 47 回	演習形式	授業を通じての到達目標	研究テーマについて考えることが出来るようになる。	資料の配布	特記事項無し	
		各コマにおける授業予定	研究テーマの設定、情報収集、計画立案、予備実験			
第 48 回	演習形式	授業を通じての到達目標	研究が実行できるようになる。	資料の配布	特記事項無し	
		各コマにおける授業予定	本実験、データ収集、データのまとめなど			
第 49 回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	研究が実行できるようになる。	資料の配布	特記事項無し	
		各コマにおける授業予定	本実験、データ収集、データのまとめなど			
第 50 回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	研究が実行できるようになる。	資料の配布	特記事項無し	
		各コマにおける授業予定	本実験、データ収集、データのまとめなど			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第51回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	研究が実行できるようになる。	資料の配布	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	本実験、データ収集、データのまとめなど		
第52回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	研究が実行できるようになる。	資料の配布	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	本実験、データ収集、データのまとめなど		
第53回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	研究が実行できるようになる。	資料の配布	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	本実験、データ収集、データのまとめなど		
第54回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	研究が実行できるようになる。	資料の配布	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	本実験、データ収集、データのまとめなど		
第55回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	研究が実行できるようになる。	資料の配布	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	本実験、データ収集、データのまとめなど		
第56回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	研究が実行できるようになる。	資料の配布	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	本実験、データ収集、データのまとめなど		
第57回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	研究が実行できるようになる。	資料の配布	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	本実験、データ収集、データのまとめなど		
第58回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	研究が実行できるようになる。	資料の配布	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	本実験、データ収集、データのまとめなど		
第59回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	研究が実行できるようになる。	資料の配布	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	本実験、データ収集、データのまとめなど		
第60回	演習形式	授業を通じての到達目標	研究が実行できるようになる。	資料の配布	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	本実験、データ収集、データのまとめなど		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	柔道整復特論		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時間	後期 集中	教室名	提携海外校
担 当 教 員	松澤 伸也	実務経験と その関連資格	柔道整復師、柔道整復師専科教員 鍼灸師			
《授業科目における学習内容》						
上海中医薬大学における基礎医学実習および施設見学						
《成績評価の方法と基準》						
レポート提出						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
解剖学テキスト 配布プリント						
《授業外における学習方法》						
基礎医学実習に挑むにあたり、解剖学の筋・脈管・神経の復習をしておく。						
《履修に当たっての留意点》						
基礎医学実習で、通常の講義では学ぶことのできない、ヒトの身体の立体的な構造を学んでほしい。特に腹膜後器官や関節内靭帯、心臓や腕神経叢などテキストでわかりにくい臨床的にも重要となる部位についてしっかりと確認してほしい。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	基礎医学実習を受講するにあたり各種注意点や実習内容について理解することができるようになる。	解剖学テキスト 配布プリント		実習の修了した部位に応じたレポートを作成する。
		各コマにおける授業予定	オリエンテーション			
第2回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	前胸壁・腋窩の筋および神経、血管の位置関係や走行を理解できるようになる。	解剖学テキスト 配布プリント		実習の修了した部位に応じたレポートを作成する。
		各コマにおける授業予定	前胸壁・腋窩の筋および神経、血管			
第3回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	上肢前面の筋および神経、血管の位置関係や走行を理解することができるようになる。	解剖学テキスト 配布プリント		実習の修了した部位に応じたレポートを作成する。
		各コマにおける授業予定	上肢前面の筋および神経、血管			
第4回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	前胸壁から上肢の解剖学的位置関係を理解することができるようになる。	解剖学テキスト 配布プリント		実習の修了した部位に応じたレポートを作成する。
		各コマにおける授業予定	前胸壁から上肢の確認			
第5回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	下肢前面の筋および神経、血管の走行や位置関係を理解することができる。	解剖学テキスト 配布プリント		実習の修了した部位に応じたレポートを作成する。
		各コマにおける授業予定	下肢前面の筋および神経、血管			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	頸部の筋および神経、血管の走行や位置関係を理解することができる。	解剖学テキスト 配布プリント	実習の修了した部位に応じたレポートを作成する。
		各コマにおける授業予定	頸部の筋および神経、血管		
第7回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	後頭部・背部の筋および神経、血管の走行や位置関係を理解することができる。	解剖学テキスト 配布プリント	実習の修了した部位に応じたレポートを作成する。
		各コマにおける授業予定	後頭部・背部の筋および神経、血管		
第8回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	下肢前面から背部の神経、血管の走行や位置関係を理解することができる。	解剖学テキスト 配布プリント	実習の修了した部位に応じたレポートを作成する。
		各コマにおける授業予定	下肢前面～背部の筋および神経、血管		
第9回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	上肢後面の筋および神経、血管の走行や位置関係を理解することができるようになる。	解剖学テキスト 配布プリント	実習の修了した部位に応じたレポートを作成する。
		各コマにおける授業予定	上肢後面の筋および神経、血管		
第10回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	下肢後面の筋および神経、血管の走行や位置関係を理解することができるようになる。	解剖学テキスト 配布プリント	実習の修了した部位に応じたレポートを作成する。
		各コマにおける授業予定	下肢後面の筋および神経、血管		
第11回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	下肢前面から下肢後面の解剖学的位置関係を理解することができるようになる。	解剖学テキスト 配布プリント	実習の修了した部位に応じたレポートを作成する。
		各コマにおける授業予定	下肢前面から下肢後面の確認		
第12回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	6大関節の解剖学的構造を理解することができるようになる。	解剖学テキスト 配布プリント	実習の修了した部位に応じたレポートを作成する。
		各コマにおける授業予定	6大関節の確認		
第13回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	胸壁・不空の内臓器官の解剖学的構造を理解することができるようになる。	解剖学テキスト 配布プリント	実習の修了した部位に応じたレポートを作成する。
		各コマにおける授業予定	胸腔・腹腔の内臓器官の確認		
第14回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	脊髄・脳の解剖学的構造を理解することができるようになる。	解剖学テキスト 配布プリント	実習の修了した部位に応じたレポートを作成する。
		各コマにおける授業予定	脊髄・脳の確認		
第15回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	大学施設の見学を行い、海外の医療情勢を理解することができるようになる。	解剖学テキスト 配布プリント	実習の修了した部位に応じたレポートを作成する。
		各コマにおける授業予定	上海中医薬大学内の施設見学		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	栄養学		必修/選択の別	選択	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時間	後期 火(4)	教室名	
担 当 教 員	平田 佐千子	実務経験と その関連資格	病院勤務経験、専門学校教員経験 管理栄養士免許、フードコーディネーター			
《授業科目における学習内容》						
国家試験に直結する教科ではないが、スポーツ分野では栄養知識は必要となり、身体を扱う以上、知っておくべき基礎的な事項とスポーツ栄養の基本的な事項を習得する。また、食事の話をしなければならない場面に必要な基本的事項も学習する						
《成績評価の方法と基準》						
定期試験 70% 出席 20% 授業態度・参加度 10%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
配布資料、公認スポーツ指導者養成テキスト・ワークブック共通科目 I 及びIII						
《授業外における学習方法》						
配布資料の復習、教科書の予習・復習、用語の確認						
《履修に当たっての留意点》						
スライドでの講義となるため、配布資料以上の情報がある。必要事項を書き入れてください。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	栄養と健康、栄養の概念	配布資料、公認スポーツ指導者養成テキスト・ワークブック共通科目 I	用語の確認	
		各コマにおける授業予定	食事と健康、日本の食生活、栄養素の種類と機能			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	炭水化物の基本的事項とスポーツとの関わり	配布資料	用語の確認 前回講義の復習	
		各コマにおける授業予定	炭水化物の種類とその機能、糖質摂取とグリコーゲン回復			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	脂質、たんぱく質の基本的事項とスポーツとの関わり	配布資料	用語の確認 前回講義の復習	
		各コマにおける授業予定	脂質の種類とその機能、たんぱく質の種類とその機能、摂取量について、筋肉作りについて			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	水溶性ビタミンの基本的事項	配布資料	用語の確認 前回講義の復習	
		各コマにおける授業予定	水溶性ビタミンとその機能、欠乏症及び過剰症について			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	脂溶性ビタミンの基本的事項とスポーツとの関わり	配布資料	用語の確認 前回講義の復習	
		各コマにおける授業予定	脂溶性ビタミンとその機能、欠乏症及び過剰症について、スポーツにおけるビタミン摂取について			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	ミネラルの基本的事項	配布資料	用語の確認 前回講義の復習
		各コマにおける授業予定	多量ミネラルの種類とその機能および欠乏症等について		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	ミネラルの基本的事項とスポーツとの関わり	配布資料	用語の確認 前回講義の復習
		各コマにおける授業予定	微量ミネラルの種類とその機能および欠乏症等について、鉄欠乏性貧血とスポーツ、骨作り		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	水分とスポーツ、機能性成分	配布資料	用語の確認 前回講義の復習
		各コマにおける授業予定	水分の役割、体温調節、水分補給、スポーツドリンク、機能性成分		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	栄養素の消化と吸収	配布資料、公認スポーツ指導者養成テキスト・ワークブック共通科目 I	用語の確認 前回講義の復習
		各コマにおける授業予定	栄養素の、各消化器官での消化、栄養素の吸収		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	栄養素の代謝、エネルギー代謝と身体活動	配布資料	用語の確認 前回講義の復習
		各コマにおける授業予定	栄養素の代謝、エネルギー代謝、基礎代謝、METs算出		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	日本人の食事摂取基準、食品分類法、食事バランスガイド	配布資料	用語の確認 前回講義の復習
		各コマにおける授業予定	日本人の食事摂取基準、エネルギー指標、栄養素指標、食品分類法、食事バランスガイド		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	機能性表示食品、サプリメント	配布資料	用語の確認 前回講義の復習
		各コマにおける授業予定	保健機能食品、パフォーマンスサプリメント、ダイエタリーサプリメント、スポーツフード、ドーピングについて		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	食事設計	配布資料	用語の確認 前回講義の復習
		各コマにおける授業予定	食事設計、アスリートの身体組成、スポーツ選手の食事計画、補食、減量と増量、食事調査		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	スポーツ選手における食事設計	配布資料	用語の確認 前回講義の復習
		各コマにおける授業予定	期分けによる食事(試合前、試合当日、試合後、合宿期、国内外の遠征、オフ期)、栄養教育		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	まとめ	配布資料 復習プリント	講義の総復習
		各コマにおける授業予定	基本的事項の振り返りと確認、復習プリント		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	病理学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時間	後期	教室名	302教室
担 当 教 員	新庄 文明	実務経験と その関連資格	前長崎大学大学院教授(公衆衛生学)、ロンドン大学キングスカレッジ客員助教授、元 大阪大学医学部講師(社会系医学)、医学博士、歯科医師			
《授業科目における学習内容》						
病理学は基礎医学を構成する学問の一分野とされているが、病気の原因、発症、進展ならびに患者に対する影響などを明らかにする学問で、基礎医学の知識を基礎として臨床医学に科学的根拠を与える土台となる、基本的な生命科学である。						
《成績評価の方法と基準》						
定期試験 100%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
全国柔道整復学校協会監修 『病理学概論』 改訂第3版(医歯薬出版)						
《授業外における学習方法》						
これまでの基礎医学、とりわけ解剖学や生理学の知識が、病理学を学ぶにあたって不可欠であるので、その復習を兼ね、従来の学習内容を整理、理解しておくことが必須である。						
《履修に当たっての留意点》						
臨床的に表れる疾病の症状を、身体の臓器や組織、ならびに細胞に生じている変化や変性との関連で、科学的に理解し、総合的に判断できる力を身につける。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	病理学の方法と疾病の原因の概要を理解する	教科書『病理学概論』および配布する補助資料	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。	
		各コマにおける授業予定	病理学の方法・病因総論			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	細胞の障害、組織の変性、代謝障害による疾病のしくみのしくみを理解する	教科書『病理学概論』および配布する補助資料	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。	
		各コマにおける授業予定	細胞と組織の障害 I 退行性病変と代謝障害			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	細胞の老化・死と生体の死のしくみを理解する	教科書『病理学概論』および配布する補助資料	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。	
		各コマにおける授業予定	細胞と組織の障害 II 老化・細胞の死と生体の死			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	局所の循環障害: 充血、うっ血、出血ならびに血栓、塞栓そして梗塞のしくみを理解する	教科書『病理学概論』および配布する補助資料	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。	
		各コマにおける授業予定	循環障害 I 充血・出血、虚血性疾患			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	全身の循環障害: 浮腫、脱水、高血圧の影響を理解する	教科書『病理学概論』および配布する補助資料	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。	
		各コマにおける授業予定	循環障害 II 浮腫、脱水、高血圧			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	細胞と組織の進行性病変のしくみ、治癒と移植における細胞と組織の適応を理解する	教科書『病理学概論』および配布する補助資料	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
		各コマにおける授業予定	進行性病変と創傷の治癒		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	炎症の原因と組織の変化、経過と形態について理解する	教科書『病理学概論』および配布する補助資料	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
		各コマにおける授業予定	炎症と免疫 I 炎症の原因と分類		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	免疫のしくみと免疫不全の病態、自己免疫疾患とアレルギーの分類としくみを理解する	教科書『病理学概論』および配布する補助資料	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
		各コマにおける授業予定	炎症と免疫 II 免疫とアレルギー		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	腫瘍の定義、その発育段階、局所および全身への影響について理解する	教科書『病理学概論』および配布する補助資料	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
		各コマにおける授業予定	腫瘍とその生体への影響		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	悪性腫瘍の外因と内因、その診断と治療について理解する	教科書『病理学概論』および配布する補助資料	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
		各コマにおける授業予定	発癌の原因		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	良性腫瘍と悪性腫瘍、主要な癌とその部位について理解する	教科書『病理学概論』および配布する補助資料	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
		各コマにおける授業予定	腫瘍の分類		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	先天性異常の原因と主な疾患、胎児への環境的影響と奇形の種類について理解する	教科書『病理学概論』および配布する補助資料	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
		各コマにおける授業予定	先天性異常と奇形		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	疾病の背景としての素因、遺伝や免疫、栄養障害、外因としての環境要因や感染を理解する	教科書『病理学概論』および配布する補助資料	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
		各コマにおける授業予定	病因各論：内因、外因と栄養障害		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨髄炎・関節炎、非感染性の軟部および骨疾患の病理、動・静脈の疾患、神経の麻痺や障害を理解する。	教科書『病理学概論』および配布する補助資料	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
		各コマにおける授業予定	運動器の病理		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	これまでの課題を整理し、理解度を確認する	教科書『病理学概論』および配布する補助資料	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
		各コマにおける授業予定	まとめ		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科目区分	専門分野	授業の方法	実習演習
科目名	臨床実習 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	45 (1) 時間(単位)
対象学年	2年		学期及び曜時間	後期	教室名	外部実習先
担当教員	奥出 一貴	実務経験と その関連資格	柔道整復師免許 柔道整復師専科教員免許 日本赤十字救急法指導員、NSCA-CPT			
《授業科目における学習内容》						
臨床実習の目的と意義。 オリエンテーションにて実習の心構え、容姿、注意点等の説明。 外部施設での見学実習						
《成績評価の方法と基準》						
レポート提出・態度と容姿、参加度を総合的に判断する。(実習指導調整者、科目担当者)						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
公益社団法人全国柔道整復学校協会 臨床実習ガイドライン						
《授業外における学習方法》						
臨床における実践的能力及び保険の仕組みに関する知識。患者との適切な対応、施術者になるための責任と自覚。 医療人としての倫理やマナー、容姿。多種職連携の重要性。						
《履修に当たっての留意点》						
臨床実習現場にて、美作市スポーツ医療看護専門学校の学生としてふさわしい容姿や受け答えのできる人材。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	実習形式	授業を通じての到達目標	臨床実習にて必要なルール、現場実習での態度、学ぶ姿勢を理解することができる。	公益社団法人全国柔道整復学校協会 臨床実習ガイドライン		
		各コマにおける授業予定	オリエンテーション(臨床実習資料の説明)			
第2回	実習形式	授業を通じての到達目標	臨床実習にて必要な書類の作成を通じて、就職活動にもつながる書類の記入方法、ルールを理解することができる。	公益社団法人全国柔道整復学校協会 臨床実習ガイドライン		
		各コマにおける授業予定	オリエンテーション(臨床実習必要書類の作成)			
第3回	実習形式	授業を通じての到達目標	現場実習において受付、問診、施術を通して患者とのコミュニケーションの方法を理解することができるようになる。	解剖学 柔道整復学・理論編 柔道整復学・実技編	実習中に遭遇した疾患について復習する。 問診について再度徒手検査や各種測定についても復習しておく。	
		各コマにおける授業予定	かねもと鍼灸整骨院・エルスリー・八尾わだち整骨院・四条啜わだち整骨院・香里園整骨院・原医院・美作名倉堂接骨院・大谷接骨院 龍野院			
第4回	実習形式	授業を通じての到達目標	現場実習において受付、問診、施術を通して患者とのコミュニケーションの方法を理解することができるようになる。	解剖学 柔道整復学・理論編 柔道整復学・実技編	実習中に遭遇した疾患について復習する。 問診について再度徒手検査や各種測定についても復習しておく。	
		各コマにおける授業予定	かねもと鍼灸整骨院・エルスリー・八尾わだち整骨院・四条啜わだち整骨院・香里園整骨院・原医院・美作名倉堂接骨院・大谷接骨院 龍野院			
第5回	実習形式	授業を通じての到達目標	現場実習において受付、問診、施術を通して患者とのコミュニケーションの方法を理解することができるようになる。	解剖学 柔道整復学・理論編 柔道整復学・実技編	実習中に遭遇した疾患について復習する。 問診について再度徒手検査や各種測定についても復習しておく。	
		各コマにおける授業予定	かねもと鍼灸整骨院・エルスリー・八尾わだち整骨院・四条啜わだち整骨院・香里園整骨院・原医院・美作名倉堂接骨院・大谷接骨院 龍野院			

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科目区分	専門分野	授業の方法	実習演習
科目名	臨床実習 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	45 (1) 時間(単位)
対象学年	2年		学期及び曜時間	後期	教室名	外部実習先
担当教員	奥出 一貴	実務経験とその関連資格	柔道整復師免許 柔道整復師専科教員免許 日本赤十字救急法指導員、NSCA-CPT			
《授業科目における学習内容》						
臨床実習の目的と意義。 オリエンテーションにて実習の心構え、容姿、注意点等の説明。 外部施設での見学実習						
《成績評価の方法と基準》						
レポート提出・態度と容姿、参加度を総合的に判断する。(実習指導調整者、科目担当者)						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
公益社団法人全国柔道整復学校協会 臨床実習ガイドライン						
《授業外における学習方法》						
臨床における実践的能力及び保険の仕組みに関する知識。患者との適切な対応、施術者になるための責任と自覚。 医療人としての倫理やマナー、容姿。多種職連携の重要性。						
《履修に当たっての留意点》						
臨床実習現場にて、美作市スポーツ医療看護専門学校の学生としてふさわしい容姿や受け答えのできる人材。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第16回	実習形式	授業を通じての到達目標	現場実習において受付、問診、施術を通して患者とのコミュニケーションの方法を理解することができるようになる。	解剖学 柔道整復学・理論編 柔道整復学・実技編	実習中に遭遇した疾患について復習する。 問診について再度徒手検査や各種測定についても復習しておく。	
		各コマにおける授業予定	かねもと鍼灸整骨院・エルスリー・八尾わだち整骨院・四条啜わだち整骨院・香里園整骨院・原医院・美作名倉堂接骨院・大谷接骨院 龍野院			
第17回	実習形式	授業を通じての到達目標	現場実習において受付、問診、施術を通して患者とのコミュニケーションの方法を理解することができるようになる。	解剖学 柔道整復学・理論編 柔道整復学・実技編	実習中に遭遇した疾患について復習する。 問診について再度徒手検査や各種測定についても復習しておく。	
		各コマにおける授業予定	かねもと鍼灸整骨院・エルスリー・八尾わだち整骨院・四条啜わだち整骨院・香里園整骨院・原医院・美作名倉堂接骨院・大谷接骨院 龍野院			
第18回	実習形式	授業を通じての到達目標	現場実習において受付、問診、施術を通して患者とのコミュニケーションの方法を理解することができるようになる。	解剖学 柔道整復学・理論編 柔道整復学・実技編	実習中に遭遇した疾患について復習する。 問診について再度徒手検査や各種測定についても復習しておく。	
		各コマにおける授業予定	かねもと鍼灸整骨院・エルスリー・八尾わだち整骨院・四条啜わだち整骨院・香里園整骨院・原医院・美作名倉堂接骨院・大谷接骨院 龍野院			
第19回	実習形式	授業を通じての到達目標	現場実習において受付、問診、施術を通して患者とのコミュニケーションの方法を理解することができるようになる。	解剖学 柔道整復学・理論編 柔道整復学・実技編	実習中に遭遇した疾患について復習する。 問診について再度徒手検査や各種測定についても復習しておく。	
		各コマにおける授業予定	かねもと鍼灸整骨院・エルスリー・八尾わだち整骨院・四条啜わだち整骨院・香里園整骨院・原医院・美作名倉堂接骨院・大谷接骨院 龍野院			
第20回	実習形式	授業を通じての到達目標	現場実習において受付、問診、施術を通して患者とのコミュニケーションの方法を理解することができるようになる。	解剖学 柔道整復学・理論編 柔道整復学・実技編	実習中に遭遇した疾患について復習する。 問診について再度徒手検査や各種測定についても復習しておく。	
		各コマにおける授業予定	かねもと鍼灸整骨院・エルスリー・八尾わだち整骨院・四条啜わだち整骨院・香里園整骨院・原医院・美作名倉堂接骨院・大谷接骨院 龍野院			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第21回	実習形式	授業を通じての到達目標	現場実習において受付、問診、施術を通して患者とのコミュニケーションの方法を理解することができるようになる。	解剖学 柔道整復学・理論編 柔道整復学・実技編	実習中に遭遇した疾患について復習する。問診について再度徒手検査や各種測定についても復習しておく。
		各コマにおける授業予定	かねもと鍼灸整骨院・エルスリー・八尾わだち整骨院・四条啜わだち整骨院・香里園整骨院・原医院・美作名倉堂接骨院・大谷接骨院 龍野院		
第22回	実習形式	授業を通じての到達目標	現場実習において受付、問診、施術を通して患者とのコミュニケーションの方法を理解することができるようになる。	解剖学 柔道整復学・理論編 柔道整復学・実技編	実習中に遭遇した疾患について復習する。問診について再度徒手検査や各種測定についても復習しておく。
		各コマにおける授業予定	かねもと鍼灸整骨院・エルスリー・八尾わだち整骨院・四条啜わだち整骨院・香里園整骨院・原医院・美作名倉堂接骨院・大谷接骨院 龍野院		
第23回	実習形式	授業を通じての到達目標	現場実習において受付、問診、施術を通して患者とのコミュニケーションの方法を理解することができるようになる。	解剖学 柔道整復学・理論編 柔道整復学・実技編	実習中に遭遇した疾患について復習する。問診について再度徒手検査や各種測定についても復習しておく。
		各コマにおける授業予定	かねもと鍼灸整骨院・エルスリー・八尾わだち整骨院・四条啜わだち整骨院・香里園整骨院・原医院・美作名倉堂接骨院・大谷接骨院 龍野院		
第24回	実習形式	授業を通じての到達目標	現場実習において受付、問診、施術を通して患者とのコミュニケーションの方法を理解することができるようになる。	解剖学 柔道整復学・理論編 柔道整復学・実技編	実習中に遭遇した疾患について復習する。問診について再度徒手検査や各種測定についても復習しておく。
		各コマにおける授業予定	かねもと鍼灸整骨院・エルスリー・八尾わだち整骨院・四条啜わだち整骨院・香里園整骨院・原医院・美作名倉堂接骨院・大谷接骨院 龍野院		
第25回	実習形式	授業を通じての到達目標	現場実習において受付、問診、施術を通して患者とのコミュニケーションの方法を理解することができるようになる。	解剖学 柔道整復学・理論編 柔道整復学・実技編	実習中に遭遇した疾患について復習する。問診について再度徒手検査や各種測定についても復習しておく。
		各コマにおける授業予定	かねもと鍼灸整骨院・エルスリー・八尾わだち整骨院・四条啜わだち整骨院・香里園整骨院・原医院・美作名倉堂接骨院・大谷接骨院 龍野院		
第26回	実習形式	授業を通じての到達目標	現場実習において受付、問診、施術を通して患者とのコミュニケーションの方法を理解することができるようになる。	解剖学 柔道整復学・理論編 柔道整復学・実技編	実習中に遭遇した疾患について復習する。問診について再度徒手検査や各種測定についても復習しておく。
		各コマにおける授業予定	かねもと鍼灸整骨院・エルスリー・八尾わだち整骨院・四条啜わだち整骨院・香里園整骨院・原医院・美作名倉堂接骨院・大谷接骨院 龍野院		
第27回	実習形式	授業を通じての到達目標	現場実習において受付、問診、施術を通して患者とのコミュニケーションの方法を理解することができるようになる。	解剖学 柔道整復学・理論編 柔道整復学・実技編	実習中に遭遇した疾患について復習する。問診について再度徒手検査や各種測定についても復習しておく。
		各コマにおける授業予定	かねもと鍼灸整骨院・エルスリー・八尾わだち整骨院・四条啜わだち整骨院・香里園整骨院・原医院・美作名倉堂接骨院・大谷接骨院 龍野院		
第28回	実習形式	授業を通じての到達目標	現場実習において受付、問診、施術を通して患者とのコミュニケーションの方法を理解することができるようになる。	解剖学 柔道整復学・理論編 柔道整復学・実技編	実習中に遭遇した疾患について復習する。問診について再度徒手検査や各種測定についても復習しておく。
		各コマにおける授業予定	かねもと鍼灸整骨院・エルスリー・八尾わだち整骨院・四条啜わだち整骨院・香里園整骨院・原医院・美作名倉堂接骨院・大谷接骨院 龍野院		
第29回	実習形式	授業を通じての到達目標	臨床実習に参加し、各学生が実際に見学し気になった症例について他の学生の症例について考察し症例について理解を深めることができる。		
		各コマにおける授業予定	症例報告会		
第30回	実習形式	授業を通じての到達目標	臨床実習に参加し、各学生が実際に見学し気になった症例について他の学生の症例について考察し症例について理解を深めることができる。		
		各コマにおける授業予定	症例報告会		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科目区分	専門分野	授業の方法	実習演習
科目名	臨床実習Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	45 (1) 時間(単位)
対象学年	2年		学期及び曜時間	後期 集中	教室名	外部実習先
担当教員	奥出 一貴	実務経験とその関連資格	柔道整復師、柔道整復師専科教員 NSCA-CPT、赤十字救急法救急員指導員			
《授業科目における学習内容》						
臨床実習の目的と意義。 オリエンテーションにて実習の心構え、容姿、注意点等の説明。 外部施設での見学実習						
《成績評価の方法と基準》						
レポート提出・態度と容姿、参加度を総合的に判断する。(実習指導調整者、科目担当者)						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
公益社団法人全国柔道整復学校協会 臨床実習ガイドライン						
《授業外における学習方法》						
臨床における実践的能力及び保険の仕組みに関する知識。患者との適切な対応、施術者になるための責任と自覚。 医療人としての倫理やマナー、容姿。多種職連携の重要性。						
《履修に当たっての留意点》						
臨床実習現場にて、美作市スポーツ医療看護専門学校の学生としてふさわしい容姿や受け答えのできる人材。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	実習形式	授業を通じての到達目標	臨床実習に必要な書類の作成、実習中のマナーについて理解することができるようになる。	公益社団法人全国柔道整復学校協会 臨床実習ガイドライン	身体測定・徒手筋力側手・徒手検査法の復習 医療面談について復習	
		各コマにおける授業予定	オリエンテーション(臨床実習資料の説明)			
第2回	実習形式	授業を通じての到達目標	臨床実習に必要な書類の作成、実習中のマナーについて理解することができるようになる。	公益社団法人全国柔道整復学校協会 臨床実習ガイドライン	身体測定・徒手筋力側手・徒手検査法の復習 医療面談について復習	
		各コマにおける授業予定	オリエンテーション(臨床実習資料の説明)			
第3回	実習形式	授業を通じての到達目標	各施設にて臨床現場を学び職業観・勤労観をより理解することができるようになる。授業で行っている座学が現場でどのようにいかされるかを理解することができるようになる。	公益社団法人全国柔道整復学校協会 臨床実習ガイドライン	身体測定・徒手筋力側手・徒手検査法の復習 医療面談について復習	
		各コマにおける授業予定	提携実習先にて現場実習			
第4回	実習形式	授業を通じての到達目標	各施設にて臨床現場を学び職業観・勤労観をより理解することができるようになる。授業で行っている座学が現場でどのようにいかされるかを理解することができるようになる。	公益社団法人全国柔道整復学校協会 臨床実習ガイドライン	身体測定・徒手筋力側手・徒手検査法の復習 医療面談について復習	
		各コマにおける授業予定	提携実習先にて現場実習			
第5回	実習形式	授業を通じての到達目標	各施設にて臨床現場を学び職業観・勤労観をより理解することができるようになる。授業で行っている座学が現場でどのようにいかされるかを理解することができるようになる。	公益社団法人全国柔道整復学校協会 臨床実習ガイドライン	身体測定・徒手筋力側手・徒手検査法の復習 医療面談について復習	
		各コマにおける授業予定	提携実習先にて現場実習			

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科目区分	専門分野	授業の方法	実習演習
科目名	臨床実習Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	45 (1) 時間(単位)
対象学年	2年		学期及び曜時間	後期 集中	教室名	外部実習先
担当教員	奥出 一貴	実務経験と その関連資格	柔道整復師、柔道整復師専科教員 NSCA-CPT、赤十字救急法救急員指導員			
《授業科目における学習内容》						
臨床実習の目的と意義。 オリエンテーションにて実習の心構え、容姿、注意点等の説明。 外部施設での見学実習						
《成績評価の方法と基準》						
レポート提出・態度と容姿、参加度を総合的に判断する。(実習指導調整者、科目担当者)						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
公益社団法人全国柔道整復学校協会 臨床実習ガイドライン						
《授業外における学習方法》						
臨床における実践的能力及び保険の仕組みに関する知識。患者との適切な対応、施術者になるための責任と自覚。 医療人としての倫理やマナー、容姿。多種職連携の重要性。						
《履修に当たっての留意点》						
臨床実習現場にて、美作市スポーツ医療看護専門学校の学生としてふさわしい容姿や受け答えのできる人材。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第 16 回	実習形式	授業を 通じての 到達目標	各施設にて臨床現場を学び職業観・勤労観をより理解することができるようになる。授業で行っている座学が現場でどのようにいかされるかを理解することができるようになる。	公益社団法人全国 柔道整復学校協会 臨床実習ガイドライ ン	身体測定・徒手筋力側手・ 徒手検査法の復習 医療面談について復習	
		各コマに おける 授業予定	提携実習先にて現場実習			
第 17 回	実習形式	授業を 通じての 到達目標	各施設にて臨床現場を学び職業観・勤労観をより理解することができるようになる。授業で行っている座学が現場でどのようにいかされるかを理解することができるようになる。	公益社団法人全国 柔道整復学校協会 臨床実習ガイドライ ン	身体測定・徒手筋力側手・ 徒手検査法の復習 医療面談について復習	
		各コマに おける 授業予定	提携実習先にて現場実習			
第 18 回	実習形式	授業を 通じての 到達目標	各施設にて臨床現場を学び職業観・勤労観をより理解することができるようになる。授業で行っている座学が現場でどのようにいかされるかを理解することができるようになる。	公益社団法人全国 柔道整復学校協会 臨床実習ガイドライ ン	身体測定・徒手筋力側手・ 徒手検査法の復習 医療面談について復習	
		各コマに おける 授業予定	提携実習先にて現場実習			
第 19 回	実習形式	授業を 通じての 到達目標	各施設にて臨床現場を学び職業観・勤労観をより理解することができるようになる。授業で行っている座学が現場でどのようにいかされるかを理解することができるようになる。	公益社団法人全国 柔道整復学校協会 臨床実習ガイドライ ン	身体測定・徒手筋力側手・ 徒手検査法の復習 医療面談について復習	
		各コマに おける 授業予定	提携実習先にて現場実習			
第 20 回	実習形式	授業を 通じての 到達目標	各施設にて臨床現場を学び職業観・勤労観をより理解することができるようになる。授業で行っている座学が現場でどのようにいかされるかを理解することができるようになる。	公益社団法人全国 柔道整復学校協会 臨床実習ガイドライ ン	身体測定・徒手筋力側手・ 徒手検査法の復習 医療面談について復習	
		各コマに おける 授業予定	提携実習先にて現場実習			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第21回	実習形式	授業を通じての到達目標	各施設にて臨床現場を学び職業観・勤労観をより理解することができるようになる。授業で行っている座学が現場でどのようにいかされるかを理解することができるようになる。	公益社団法人全国柔道整復学校協会臨床実習ガイドライン	身体測定・徒手筋力側手・徒手検査法の復習 医療面談について復習
		各コマにおける授業予定	提携実習先にて現場実習		
第22回	実習形式	授業を通じての到達目標	各施設にて臨床現場を学び職業観・勤労観をより理解することができるようになる。授業で行っている座学が現場でどのようにいかされるかを理解することができるようになる。	公益社団法人全国柔道整復学校協会臨床実習ガイドライン	身体測定・徒手筋力側手・徒手検査法の復習 医療面談について復習
		各コマにおける授業予定	提携実習先にて現場実習		
第23回	実習形式	授業を通じての到達目標	各施設にて臨床現場を学び職業観・勤労観をより理解することができるようになる。授業で行っている座学が現場でどのようにいかされるかを理解することができるようになる。	公益社団法人全国柔道整復学校協会臨床実習ガイドライン	身体測定・徒手筋力側手・徒手検査法の復習 医療面談について復習
		各コマにおける授業予定	提携実習先にて現場実習		
第24回	実習形式	授業を通じての到達目標	各施設にて臨床現場を学び職業観・勤労観をより理解することができるようになる。授業で行っている座学が現場でどのようにいかされるかを理解することができるようになる。	公益社団法人全国柔道整復学校協会臨床実習ガイドライン	身体測定・徒手筋力側手・徒手検査法の復習 医療面談について復習
		各コマにおける授業予定	提携実習先にて現場実習		
第25回	実習形式	授業を通じての到達目標	各施設にて臨床現場を学び職業観・勤労観をより理解することができるようになる。授業で行っている座学が現場でどのようにいかされるかを理解することができるようになる。	公益社団法人全国柔道整復学校協会臨床実習ガイドライン	身体測定・徒手筋力側手・徒手検査法の復習 医療面談について復習
		各コマにおける授業予定	提携実習先にて現場実習		
第26回	実習形式	授業を通じての到達目標	各施設にて臨床現場を学び職業観・勤労観をより理解することができるようになる。授業で行っている座学が現場でどのようにいかされるかを理解することができるようになる。	公益社団法人全国柔道整復学校協会臨床実習ガイドライン	身体測定・徒手筋力側手・徒手検査法の復習 医療面談について復習
		各コマにおける授業予定	提携実習先にて現場実習		
第27回	実習形式	授業を通じての到達目標	各施設にて臨床現場を学び職業観・勤労観をより理解することができるようになる。授業で行っている座学が現場でどのようにいかされるかを理解することができるようになる。	公益社団法人全国柔道整復学校協会臨床実習ガイドライン	身体測定・徒手筋力側手・徒手検査法の復習 医療面談について復習
		各コマにおける授業予定	提携実習先にて現場実習		
第28回	実習形式	授業を通じての到達目標	各施設にて臨床現場を学び職業観・勤労観をより理解することができるようになる。授業で行っている座学が現場でどのようにいかされるかを理解することができるようになる。	公益社団法人全国柔道整復学校協会臨床実習ガイドライン	身体測定・徒手筋力側手・徒手検査法の復習 医療面談について復習
		各コマにおける授業予定	提携実習先にて現場実習		
第29回	実習形式	授業を通じての到達目標	他施設にて学んだ内容の共有と学生各々が実習中に遭遇した症例について調べ、アウトプットすることで理解を深めることができるようになる。	公益社団法人全国柔道整復学校協会臨床実習ガイドライン	身体測定・徒手筋力側手・徒手検査法の復習 医療面談について復習
		各コマにおける授業予定	症例報告会		
第30回	実習形式	授業を通じての到達目標	他施設にて学んだ内容の共有と学生各々が実習中に遭遇した症例について調べ、アウトプットすることで理解を深めることができるようになる。	公益社団法人全国柔道整復学校協会臨床実習ガイドライン	身体測定・徒手筋力側手・徒手検査法の復習 医療面談について復習
		各コマにおける授業予定	症例報告会		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整備スポーツトレーナー		科 目 区 分	その他	授業の方法	実習演習
科 目 名	臨床実習Ⅴ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	45 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	前期	教室名	外部施設
担 当 教 員	奥出 一貴、松澤 伸也 生田 晶子、松尾 起命	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
<p>スポーツトレーナー系実習として、スポーツ現場における基本的な挨拶およびマナーを修得する。現場において応急処置やストレッチング等の実践を通じて、利用者とのコミュニケーションの重要性を理解するとともに、学内で学習した知識と実践との関連性を認識する。また、授業内では経験できない利用者への施術を通して、状況に応じた判断力および対応力を養い、実践的な技術力の向上を図る。</p>						
《成績評価の方法と基準》						
<ul style="list-style-type: none"> ・出席点 ・平常点 ・レポート提出 						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
必要に応じて配布資料						
《授業外における学習方法》						
<p>スポーツ現場への理解を深めるため、日常的にテレビ中継やインターネット等を活用し、各種スポーツの観戦を行い、トレーナーの役割や現場での対応について関心を高めること。 また、テーピングやアイシング等、授業で学習した技術については自宅等での反復練習を行い、技能の定着を図ること。さらに、関連する座学内容についても復習を行い、知識と実践を結びつけて理解を深めること。</p>						
《履修に当たっての留意点》						
<p>本実習では、スポーツ現場で求められる基本的態度として、挨拶の徹底および時間厳守を遵守すること。また、実習中に不明点や疑問点が生じた場合は、そのままにせず必ず教員へ確認し、安全かつ適切な対応ができるよう努めること。 さらに、受動的な姿勢ではなく、実習の機会を有効に活用するため、常に積極的な姿勢で参加すること。</p>						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	挨拶や社会人としての基本的マナーを理解し、適切に行動できるようになることを目標とする。また、利用者との関わりを通じてコミュニケーションスキルおよび実践的な技術力の向上を図る。	必要に応じて配布資料		スポーツ観戦や技術練習、座学復習を通じて知識と技能の定着を図る
	各コマにおける授業予定	湯郷ベルボランティア実習、湯郷ベルストレッチブース対応、岡山シーガルズ練習見学、ちくさ高原スキー場救護実習、スポーツフェスの学校イベント対応				
第2回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	挨拶や社会人としての基本的マナーを理解し、適切に行動できるようになることを目標とする。また、利用者との関わりを通じてコミュニケーションスキルおよび実践的な技術力の向上を図る。	必要に応じて配布資料		スポーツ観戦や技術練習、座学復習を通じて知識と技能の定着を図る
	各コマにおける授業予定	湯郷ベルボランティア実習、湯郷ベルストレッチブース対応、岡山シーガルズ練習見学、ちくさ高原スキー場救護実習、スポーツフェスの学校イベント対応				
第3回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	挨拶や社会人としての基本的マナーを理解し、適切に行動できるようになることを目標とする。また、利用者との関わりを通じてコミュニケーションスキルおよび実践的な技術力の向上を図る。	必要に応じて配布資料		スポーツ観戦や技術練習、座学復習を通じて知識と技能の定着を図る
	各コマにおける授業予定	湯郷ベルボランティア実習、湯郷ベルストレッチブース対応、岡山シーガルズ練習見学、ちくさ高原スキー場救護実習、スポーツフェスの学校イベント対応				
第4回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	挨拶や社会人としての基本的マナーを理解し、適切に行動できるようになることを目標とする。また、利用者との関わりを通じてコミュニケーションスキルおよび実践的な技術力の向上を図る。	必要に応じて配布資料		スポーツ観戦や技術練習、座学復習を通じて知識と技能の定着を図る
	各コマにおける授業予定	湯郷ベルボランティア実習、湯郷ベルストレッチブース対応、岡山シーガルズ練習見学、ちくさ高原スキー場救護実習、スポーツフェスの学校イベント対応				
第5回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	挨拶や社会人としての基本的マナーを理解し、適切に行動できるようになることを目標とする。また、利用者との関わりを通じてコミュニケーションスキルおよび実践的な技術力の向上を図る。	必要に応じて配布資料		スポーツ観戦や技術練習、座学復習を通じて知識と技能の定着を図る
	各コマにおける授業予定	湯郷ベルボランティア実習、湯郷ベルストレッチブース対応、岡山シーガルズ練習見学、ちくさ高原スキー場救護実習、スポーツフェスの学校イベント対応				

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整備スポーツトレーナー		科 目 区 分	その他	授業の方法	実習演習
科 目 名	臨床実習Ⅴ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	45 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時間	前期	教室名	外部施設
担 当 教 員	奥出 一貴、松澤 伸也 生田 晶子、松尾 起命	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
<p>スポーツトレーナー系実習として、スポーツ現場における基本的な挨拶およびマナーを修得する。現場において応急処置やストレッチング等の実践を通じて、利用者とのコミュニケーションの重要性を理解するとともに、学内で学習した知識と実践との関連性を認識する。また、授業内では経験できない利用者への施術を通して、状況に応じた判断力および対応力を養い、実践的な技術力の向上を図る。</p>						
《成績評価の方法と基準》						
<ul style="list-style-type: none"> ・出席点 ・平常点 ・レポート提出 						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
必要に応じて配布資料						
《授業外における学習方法》						
<p>スポーツ現場への理解を深めるため、日常的にテレビ中継やインターネット等を活用し、各種スポーツの観戦を行い、トレーナーの役割や現場での対応について関心を高めること。 また、テーピングやアイシング等、授業で学習した技術については自宅等での反復練習を行い、技能の定着を図ること。さらに、関連する座学内容についても復習を行い、知識と実践を結びつけて理解を深めること。</p>						
《履修に当たっての留意点》						
<p>本実習では、スポーツ現場で求められる基本的態度として、挨拶の徹底および時間厳守を遵守すること。また、実習中に不明点や疑問点が生じた場合は、そのままにせず必ず教員へ確認し、安全かつ適切な対応ができるよう努めること。 さらに、受動的な姿勢ではなく、実習の機会を有効に活用するため、常に積極的な姿勢で参加すること。</p>						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第16回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	挨拶や社会人としての基本的マナーを理解し、適切に行動できるようになることを目標とする。また、利用者との関わりを通じてコミュニケーションスキルおよび実践的な技術力の向上を図る。	必要に応じて配布資料		スポーツ観戦や技術練習、座学復習を通じて知識と技能の定着を図る
	各コマにおける授業予定	湯郷ベルボランティア実習、湯郷ベルストレッチブース対応、岡山シーガルズ練習見学、ちくさ高原スキー場救護実習、スポーツフェスの学校イベント対応				
第17回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	挨拶や社会人としての基本的マナーを理解し、適切に行動できるようになることを目標とする。また、利用者との関わりを通じてコミュニケーションスキルおよび実践的な技術力の向上を図る。	必要に応じて配布資料		スポーツ観戦や技術練習、座学復習を通じて知識と技能の定着を図る
	各コマにおける授業予定	湯郷ベルボランティア実習、湯郷ベルストレッチブース対応、岡山シーガルズ練習見学、ちくさ高原スキー場救護実習、スポーツフェスの学校イベント対応				
第18回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	挨拶や社会人としての基本的マナーを理解し、適切に行動できるようになることを目標とする。また、利用者との関わりを通じてコミュニケーションスキルおよび実践的な技術力の向上を図る。	必要に応じて配布資料		スポーツ観戦や技術練習、座学復習を通じて知識と技能の定着を図る
	各コマにおける授業予定	湯郷ベルボランティア実習、湯郷ベルストレッチブース対応、岡山シーガルズ練習見学、ちくさ高原スキー場救護実習、スポーツフェスの学校イベント対応				
第19回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	挨拶や社会人としての基本的マナーを理解し、適切に行動できるようになることを目標とする。また、利用者との関わりを通じてコミュニケーションスキルおよび実践的な技術力の向上を図る。	必要に応じて配布資料		スポーツ観戦や技術練習、座学復習を通じて知識と技能の定着を図る
	各コマにおける授業予定	湯郷ベルボランティア実習、湯郷ベルストレッチブース対応、岡山シーガルズ練習見学、ちくさ高原スキー場救護実習、スポーツフェスの学校イベント対応				
第20回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	挨拶や社会人としての基本的マナーを理解し、適切に行動できるようになることを目標とする。また、利用者との関わりを通じてコミュニケーションスキルおよび実践的な技術力の向上を図る。	必要に応じて配布資料		スポーツ観戦や技術練習、座学復習を通じて知識と技能の定着を図る
	各コマにおける授業予定	湯郷ベルボランティア実習、湯郷ベルストレッチブース対応、岡山シーガルズ練習見学、ちくさ高原スキー場救護実習、スポーツフェスの学校イベント対応				

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー学科		科目区分	専門分野	授業の方法	講義
科目名	臨床柔道整復学・各論 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (4) 時間(単位)
対象学年	2年		学期及び曜時間	前期 金1,2	教室名	302教室
担当教員	松澤 伸也	実務経験と その関連資格	柔道整復師免許・柔道整復師専科教員			
《授業科目における学習内容》						
運動系について学ぶ。						
《成績評価の方法と基準》						
素点:100%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
解剖学 改訂第2版						
《授業外における学習方法》						
教科書に沿い、講義・国家試験に準じた復習を行う。 講義で使用した口頭試問・四択問題を解く。						
《履修に当たっての留意点》						
構造を多角的に理解する。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	上肢の筋を理解する。	解剖学 改訂第2版	授業範囲の予習・復習	
		各コマにおける授業予定	上肢の筋(起始・停止・作用・支配神経)			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	上肢の筋を理解する。	解剖学 改訂第2版	授業範囲の予習・復習	
		各コマにおける授業予定	上肢の筋(起始・停止・作用・支配神経)			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	上肢の筋を理解する。	解剖学 改訂第2版	授業範囲の予習・復習	
		各コマにおける授業予定	上肢の筋(起始・停止・作用・支配神経)			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	上肢の筋を理解する。	解剖学 改訂第2版	授業範囲の予習・復習	
		各コマにおける授業予定	上肢の筋(起始・停止・作用・支配神経)			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	上肢の筋を理解する。	解剖学 改訂第2版	授業範囲の予習・復習	
		各コマにおける授業予定	上肢の筋(起始・停止・作用・支配神経)			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	上肢の筋を理解する。	解剖学 改訂第2版	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	上肢の筋(起始・停止・作用・支配神経)		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	上肢の筋を理解する。	解剖学 改訂第2版	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	上肢の筋(起始・停止・作用・支配神経)		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	上肢の筋を理解する。	解剖学 改訂第2版	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	上肢の筋(起始・停止・作用・支配神経)		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	上肢の筋を理解する。	解剖学 改訂第2版	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	上肢の筋(起始・停止・作用・支配神経)		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	上肢の筋を理解する。	解剖学 改訂第2版	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	上肢の筋(起始・停止・作用・支配神経)		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	下肢の筋を理解する。	解剖学 改訂第2版	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	下肢の筋(起始・停止・作用・支配神経)		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	下肢の筋を理解する。	解剖学 改訂第2版	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	下肢の筋(起始・停止・作用・支配神経)		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	下肢の筋を理解する。	解剖学 改訂第2版	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	下肢の筋(起始・停止・作用・支配神経)		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	下肢の筋を理解する。	解剖学 改訂第2版	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	下肢の筋(起始・停止・作用・支配神経)		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	下肢の筋を理解する。	解剖学 改訂第2版	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	下肢の筋(起始・停止・作用・支配神経)		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	臨床柔道整復学・各論 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (4) 時間(単位)
対 象 学 年	2年		学期及び曜時間	前期 金 1,2	教室名	302教室
担 当 教 員	松澤 伸也	実務経験と その関連資格	柔道整復師免許・柔道整復師専科教員			
《授業科目における学習内容》						
運動系について学ぶ。						
《成績評価の方法と基準》						
素点:100%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
解剖学 改訂第2版						
《授業外における学習方法》						
教科書に沿い、講義・国家試験に準じた復習を行う。 講義で使用した口頭試問・四択問題を解く。						
《履修に当たっての留意点》						
構造を多角的に理解する。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第 16 回	講義 形式	授業を 通じての 到達目標	頭部・体幹の筋を理解する。	解剖学 改訂第2 版	授業範囲の予習・復習	
		各コマに おける 授業予定	頭部・体幹の筋(起始・停止・作用・支配神経)			
第 17 回	講義 形式	授業を 通じての 到達目標	頭部・体幹の筋を理解する。	解剖学 改訂第2 版	授業範囲の予習・復習	
		各コマに おける 授業予定	頭部・体幹の筋(起始・停止・作用・支配神経)			
第 18 回	講義 形式	授業を 通じての 到達目標	頭部・体幹の筋を理解する。	解剖学 改訂第2 版	授業範囲の予習・復習	
		各コマに おける 授業予定	頭部・体幹の筋(起始・停止・作用・支配神経)			
第 19 回	講義 形式	授業を 通じての 到達目標	頭部・体幹の筋を理解する。	解剖学 改訂第2 版	授業範囲の予習・復習	
		各コマに おける 授業予定	頭部・体幹の筋(起始・停止・作用・支配神経)			
第 20 回	講義 形式	授業を 通じての 到達目標	全身の運動器を理解する。	解剖学 改訂第2 版	授業範囲の予習・復習	
		各コマに おける 授業予定	過去問			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第21回	講義形式	授業を通じての到達目標	全身の運動器を理解する。	解剖学 改訂第2版	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	過去問		
第22回	講義形式	授業を通じての到達目標	全身の運動器を理解する。	解剖学 改訂第2版	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	過去問の解説		
第23回	講義形式	授業を通じての到達目標	全身の運動器を理解する。	解剖学 改訂第2版	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	過去問の解説		
第24回	講義形式	授業を通じての到達目標	神経系を理解する。	解剖学 改訂第2版	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	神経系の基礎		
第25回	講義形式	授業を通じての到達目標	神経系を理解する。	解剖学 改訂第2版	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	脳		
第26回	講義形式	授業を通じての到達目標	神経系を理解する。	解剖学 改訂第2版	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	脳、脊髄		
第27回	講義形式	授業を通じての到達目標	神経系を理解する。	解剖学 改訂第2版	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	末梢神経		
第28回	講義形式	授業を通じての到達目標	神経系を理解する。	解剖学 改訂第2版	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	末梢神経		
第29回	講義形式	授業を通じての到達目標	神経系を理解する。	解剖学 改訂第2版	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	末梢神経		
第30回	講義形式	授業を通じての到達目標	神経系を理解する。	解剖学 改訂第2版	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	自律神経		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー学科		科目区分	専門分野	授業の方法	講義
科目名	臨床柔道整復学・各論Ⅲ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対象学年	2年		学期及び曜時間	前期 水1	教室名	302教室
担当教員	松澤 伸也	実務経験と その関連資格	柔道整復師免許・柔道整復師専科教員			
《授業科目における学習内容》						
傷病の診察・検査・整復・固定について学ぶ。						
《成績評価の方法と基準》						
素点:100%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
柔道整復学・理論編 改訂第7版 柔道整復学・実技編 改訂第2版 解剖学 改訂第2版						
《授業外における学習方法》						
教科書に沿い、講義・国家試験に準じた復習を行う。 講義で使用した口頭試問・四択問題を解く。						
《履修に当たっての留意点》						
基礎となる解剖学を理解する。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	上肢の骨折を理解する。	柔道整復学・理論編 改訂第7版 柔道整復学・実技編 改訂第2版 解剖学 改訂第2版	授業範囲の予習・復習	
		各コマにおける授業予定	鎖骨骨折(中央・遠位1/3境界部骨折)の診察及び整復・固定			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	上肢の骨折を理解する。	柔道整復学・理論編 改訂第7版 柔道整復学・実技編 改訂第2版 解剖学 改訂第2版	授業範囲の予習・復習	
		各コマにおける授業予定	上腕骨外科頸骨折(外転型骨折)の診察及び整復			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	上肢の骨折を理解する。	柔道整復学・理論編 改訂第7版 柔道整復学・実技編 改訂第2版 解剖学 改訂第2版	授業範囲の予習・復習	
		各コマにおける授業予定	上腕骨骨幹部骨折の固定			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	上肢の骨折を理解する。	柔道整復学・理論編 改訂第7版 柔道整復学・実技編 改訂第2版 解剖学 改訂第2版	授業範囲の予習・復習	
		各コマにおける授業予定	コーレス骨折(定型的骨折)の診察及び整復・固定			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	上肢の骨折を理解する。	柔道整復学・理論編 改訂第7版 柔道整復学・実技編 改訂第2版 解剖学 改訂第2版	授業範囲の予習・復習	
		各コマにおける授業予定	中手骨頸部骨折の固定			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	下肢の骨折を理解する。	柔道整復学・理論編 改訂第7版 柔道整復学・実技編 改訂第2版 解剖学 改訂第2版	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	下腿骨骨幹部骨折の固定		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	体幹の骨折を理解する。	柔道整復学・理論編 改訂第7版 柔道整復学・実技編 改訂第2版 解剖学 改訂第2版	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	肋骨骨折の固定		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	上肢の脱臼を理解する。	柔道整復学・理論編 改訂第7版 柔道整復学・実技編 改訂第2版 解剖学 改訂第2版	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	肩鎖関節脱臼(上方脱臼)の診察及び整復・固定		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	上肢の脱臼を理解する。	柔道整復学・理論編 改訂第7版 柔道整復学・実技編 改訂第2版 解剖学 改訂第2版	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	肩関節脱臼(前方脱臼)の診察及び整復・固定		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	上肢の脱臼を理解する。	柔道整復学・理論編 改訂第7版 柔道整復学・実技編 改訂第2版 解剖学 改訂第2版	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	肘関節脱臼(後方脱臼)の診察及び整復・固定		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	上肢の脱臼を理解する。	柔道整復学・理論編 改訂第7版 柔道整復学・実技編 改訂第2版 解剖学 改訂第2版	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	肘内障の診察及び整復		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	上肢の脱臼を理解する。	柔道整復学・理論編 改訂第7版 柔道整復学・実技編 改訂第2版 解剖学 改訂第2版	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	手第2指PIP関節背側脱臼の固定		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	上肢の軟部組織損傷を理解する。	柔道整復学・理論編 改訂第7版 柔道整復学・実技編 改訂第2版 解剖学 改訂第2版	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	肩腱板損傷の診察及び検査		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	上肢の軟部組織損傷を理解する。	柔道整復学・理論編 改訂第7版 柔道整復学・実技編 改訂第2版 解剖学 改訂第2版	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	上腕二頭筋長頭腱損傷の診察及び検査		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	全身の診察及び整復、診察及び検査、固定を理解する。	柔道整復学・理論編 改訂第7版 柔道整復学・実技編 改訂第2版 解剖学 改訂第2版	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	纏め		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	運動学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	前期 木・1限	教室名	302教室
担 当 教 員	新庄 文明	実務経験と その関連資格	前長崎大学大学院教授(公衆衛生学)、ロンドン大学キングスカレッジ客員助教授、元 大阪大学医学部講師(社会系医学)、医学博士、歯科医師			
《授業科目における学習内容》						
<p>柔道整復師の仕事は、患者さんの歩き方や立ち姿を見ることから始まります。運動学を学ぶ意義は、感覚的に『動きがおかしい』と感じるものを、論理的・客観的に分析する視点を身につけることです。なぜ特定の動作で痛みが出るのかを解明するための知識を修得します。</p>						
《成績評価の方法と基準》						
<p>定期試験、出席状況、学習状況、課題、レポート、小テストなどで評価する。</p>						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
<p>全国柔道整復学校協会監修 『運動学』 改訂第3版(医歯薬出版)</p>						
《授業外における学習方法》						
<p>これまでの基礎医学、とりわけ解剖学や生理学の知識が、運動学を学ぶにあたって不可欠であるので、その復習を兼ね、従来の学習内容を整理、理解しておくことが必須である。</p>						
《履修に当たっての留意点》						
<p>運動機能の障害を扱ううえで必要な、正常運動と異常運動の理解、運動分析にもとづく評価など、医学における診断にあたる総合的な判断ができる力を身に着ける。</p>						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	運動学の領域、運動の捉え方、運動の表示について理解する	教科書『運動学』 および配布する 補助資料	配布資料のうち学習小 テストの内容を復習・確 認する。	
		各コマにおける授業予定	運動学総論:運動学の目的と範囲			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	身体運動に関する力、運動の法則に力学的エネルギーの考え 方について理解する	教科書『運動学』 および配布する 補助資料	配布資料のうち学習小 テストの内容を復習・確 認する。	
		各コマにおける授業予定	身体運動と力学			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨および関節・骨格筋の構造と機能を理解する	教科書『運動学』 および配布する 補助資料		
		各コマにおける授業予定	運動器の構造と機能			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	神経細胞および中枢・末梢氏名の働きを理解する	教科書『運動学』 および配布する 補助資料	配布資料のうち学習小 テストの内容を復習・確 認する。	
		各コマにおける授業予定	神経の構造と機能			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	運動にかかわる感覚と知覚、運動の制御について理解する	教科書『運動学』 および配布する 補助資料	配布資料のうち学習小 テストの内容を復習・確 認する。	
		各コマにおける授業予定	運動感覚			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	反射のしくみ、連合運動と共同運動、ならびに随意運動の発現とそのプログラムについて理解する	教科書『運動学』 および配布する 補助資料	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
		各コマにおける授業予定	反射と随意運動		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	姿勢の分類、重心ならびに立位姿勢の安定性とその制御について理解する	教科書『運動学』 および配布する 補助資料	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
		各コマにおける授業予定	姿勢		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	乳幼児の運動発達ならびに神経組織の成熟について理解する	教科書『運動学』 および配布する 補助資料	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
		各コマにおける授業予定	運動発達		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	運動技能と運動能力、運動の動機付け、学習の転移・記憶について理解する	教科書『運動学』 および配布する 補助資料	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
		各コマにおける授業予定	運動学習		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	上肢体と肩関節の運動について理解する	教科書『運動学』 および配布する 補助資料	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
		各コマにおける授業予定	四肢と体幹の運動 ①		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	肘関節、前腕、手関節と手の運動について理解する	教科書『運動学』 および配布する 補助資料	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
		各コマにおける授業予定	四肢と体幹の運動 ②		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	股関節、膝関節、足関節と足部の運動について理解する	教科書『運動学』 および配布する 補助資料	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
		各コマにおける授業予定	四肢と体幹の運動 ③		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	体幹と脊柱、頸椎・胸椎の運動について理解する	教科書『運動学』 および配布する 補助資料	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
		各コマにおける授業予定	四肢と体幹の運動 ④		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	腰椎、仙椎、骨盤および頭部・顔面の運動について理解する	教科書『運動学』 および配布する 補助資料	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
		各コマにおける授業予定	四肢と体幹の運動 ⑤		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	後期の課題を整理し、理解度を確認する	教科書『運動学』 および配布する 補助資料	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
		各コマにおける授業予定	まとめ 試験対策		